

教養科目（令和7年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期	小林 文雄		授業コード別掲 後期開講（2～3月） 日本史指定・社会情報指定 国語国文・英語英文指定 英語英文・日本史指定 国語国文・社会情報指定	
		65000	別掲 教養ゼミ	②	30	1	前期	(別掲)			
		60031	キャリア実践講座	1	15	1	集中	後藤 和也			
		60040	60041 ライフ・キャリアデザイン (木曜Ⅴ限)	}	2	30	1・2	前期	後藤 和也		
		60040	60042 " (金曜Ⅴ限)								
		60050	60051 現代社会とキャリア形成 (火曜Ⅴ限)	}	2	30	1・2	後期	後藤 和也		
		60050	60052 " (木曜Ⅴ限)								
	主題別科目	60110	60111 心理学 (火曜Ⅱ限)	}	2	30	1・2	前期	石崎 毅	○ 教職必修 栄養大との合同授業(単位互換による) 栄養大との合同授業(単位互換による) 前期開講（8～9月）	
		60110	60112 " (火曜Ⅲ限)								
		60130	日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学			
		60140	国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学			
		60150	現代社会論	2	30	1・2	集中	門田 一徳			
		60160	ジェンダー論	2	30	1・2	前期	滝口 克典			
		60190	健康と栄養	1	15	1・2	前期	金谷 由希			
60200		芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典				
情報リテラシー	60210	60211 情報処理演習Ⅰ (水曜Ⅱ限)	}	2	30	1・2	前期	山田 忍	② 英語英文指定 国語国文指定 日本史・社会情報指定 日本史指定 国語国文指定 国語国文・日本史指定 国語国文指定 英語英文指定 日本史・社会情報指定 「情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい 本年度開講せず 本年度開講せず		
	60210	60212 " (木曜Ⅰ限)									
	60210	60213 " (水曜Ⅲ限)									
	60210	60214 " (水曜Ⅳ限)									
	60210	60215 " (金曜Ⅰ限)									
	60220	60221 情報処理演習Ⅱ (水曜Ⅰ限)	}	2	30	1・2	後期	山田 忍			
	60220	60223 " (木曜Ⅰ限)									
	60220	60224 " (月曜Ⅱ限)									
	60220	60225 " (火曜Ⅰ限)									
	60220	60225 " (火曜Ⅰ限)									
	60260	応用情報処理演習Ⅰ	2	30	1・2	前期	西川 友子				
		応用情報処理演習Ⅱ	2	30	1・2	前期	—				
		応用情報処理演習Ⅲ	2	30	1・2	前期	—				
	共通基礎科目	外国語（英語英文学科以外）	60310	英語一	}	2	30	1・2		前期	三枝 和彦
60320			英語二								
60330			英語三								
60340			英語四								
60350			英語五								
60360			英語六								
60370			英語七								
60380			英語八								
60390			英語九								
60400			英会話A	}	2	30	1・2	前期	今井 コレット		
60410			英会話B								
60420			英会話C								
60430			英会話D								
60451			異文化理解実習	1	30	1・2	集中	英文専任教員			
60460			60461 フランス語一 (月曜Ⅲ限)	}	2	30	1・2	前期	寺本 弘子		
60460			60462 " (月曜Ⅳ限)								
60470			60471 フランス語二 (月曜Ⅱ限)	}	2	30	1・2	後期	寺本 弘子		
60470			60472 " (月曜Ⅳ限)								
60480			フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子			
60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子				
60500		60501 中国語一 (月曜Ⅲ限)	}	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
60500		60502 " (月曜Ⅳ限)									
60500		60503 " (月曜Ⅱ限)									
60500	60504 " (月曜Ⅲ限)										
60510	60511 中国語二 (月曜Ⅲ限)	}	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				
60510	60512 " (月曜Ⅳ限)										
60510	60513 " (月曜Ⅱ限)										
60510	60514 " (月曜Ⅲ限)										
60520	中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広					
60530	中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広					

教養科目（令和7年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要				
共通基礎科目	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	寺本 弘子		〔 英語英文学科 〕				
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）											
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	寺本 弘子						
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）											
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子						
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子						
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広						
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）					齋藤 知広						
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）					李 通江						
	60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広						
	60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）					齋藤 知広						
	60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	李 通江						
	60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）					李 通江						
		60520		2	30	1・2	前期	齋藤 知広						
		60530		2	30	1・2	後期	齋藤 知広						
		60451		1	30	1・2	集中	英文専任教員						
											後期開講（2～3月）			
	保健体育	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期			村井 友樹	②	個人種目スポーツ	
		60620		スポーツ実技二									個人種目スポーツ	
60630			スポーツ実技三	団体種目スポーツ										
60640			スポーツ実技四	団体種目スポーツ										
60650			スポーツ実技五	レクリエーション・スポーツ										
60660			スポーツ実技六	レクリエーション・スポーツ										
60670			スポーツ実技七	フィットネス										
60680			スポーツ実技八	フィットネス										
60690			スポーツ実技九	前期開講（8～9月）										
60700			スポーツ実技十	後期開講（2～3月）										
60710			健康理論 ※1	1					15	1・2			後期	加藤 守匡
60720			スポーツ文化論 ※1	2					30	1・2			後期	村井 友樹

(注)・「○数字」は必修単位数、「□○数字」は選択必修単位数

- ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
- ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす
- ・※1「健康理論」及び「スポーツ文化論」は、卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

教養ゼミ 授業コード

学科	科目コード	授業コード	担当教員
国語国文	65000	65011	小峰 克之
	65000	65012	山本 淳
	65000	65013	佐々木紀一
	65000	65014	村瀬 桃子
	65000	65015	高畑 早希
	65000	65016	大沼太兵衛
	65000	65017	後藤 和也
	65000	65018	高橋 永行
	65000	65019	今井 瞳良
英語英文	65000	65021	北山 長貴
	65000	65022	阿部 隆夫
	65000	65024	渡邊真由美
	65000	65025	畑田 秀将
	65000	65026	小林 亜希
	65000	65027	クワァコリ・マニ

学科	科目コード	授業コード	担当教員
日本史	65000	65031	桑林 賢治
	65000	65032	小林 文雄
	65000	65033	吉田 歆
	65000	65034	布施 賢治
	65000	65035	原 淳一郎
	65000	65036	山田彩起子
社会情報	65000	65041	石崎 毅
	65000	65042	亀ヶ谷雅彦
	65000	65044	小池 隆太
	65000	65045	山田 忍
	65000	65046	西川 友子
	65000	65047	村井 友樹
	65000	65048	中川 恵

※指定学年（1学年）以外の者が「教養ゼミ」の再履修を要する場合は、別途指示する

教養科目（令和6年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期	小林 文雄		後期開講（2～3月）	
			教養ゼミ	②	30	1	前期	—			
			キャリア実践講座	1	15	1	集中	後藤 和也			
		60040	60041	ライフ・キャリアデザイン （木曜V限）	2	30	1・2	前期	後藤 和也		日本史・社会情報指定
		60040	60042	” （金曜V限）							国語国文・英語英文指定
		60050	60051	現代社会とキャリア形成 （火曜V限）	2	30	1・2	後期	後藤 和也		英語英文・日本史指定
		60050	60052	” （木曜V限）					国語国文・社会情報指定		
	主題別科目	60110	60111	心理学（火曜II限）	2	30	1・2	前期	石崎 毅	○ 教職必修 栄養大との合同授業（単位互換による） 栄養大との合同授業（単位互換による） 前期開講（8～9月）	
		60110	60112	”（火曜III限）							
		60130		日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学		
		60140		国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学		
		60150		現代社会論	2	30	1・2	集中	門田 一徳		
		60160		ジェンダー論	2	30	1・2	前期	滝口 克典		
		60190		健康と栄養	1	15	1・2	前期	金谷 由希		
60200			芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典			
情報リテラシー	60210	60211	情報処理演習Ⅰ（水曜II限）	2	30	1・2	前期	山田 忍	② 英語英文指定 国語国文指定 日本史・社会情報指定 日本史指定 国語国文指定 国語国文・日本史指定 国語国文指定 英語英文指定 日本史・社会情報指定 「情報処理演習Ⅱ」を受講していることが望ましい 本年度開講せず 本年度開講せず		
	60210	60212	”（木曜I限）					小池 隆太			
	60210	60213	”（水曜III限）					石崎 毅			
	60210	60214	”（水曜IV限）					中川 恵			
	60210	60215	”（金曜I限）					董 彦文			
	60220	60221	情報処理演習Ⅱ（水曜I限）	2	30	1・2	後期	山田 忍			
	60220	60223	”（木曜I限）					西川 友子			
	60220	60224	”（月曜II限）					董 彦文			
	60220	60225	”（火曜I限）					石崎 毅			
	60260		応用情報処理演習Ⅰ	2	30	1・2	前期	西川 友子			
			応用情報処理演習Ⅱ	2	30	1・2	前期	—			
			応用情報処理演習Ⅲ	2	30	1・2	前期	—			
	共通基礎科目	外国語（英語英文学科以外）	60310	英語一	2	30	1・2	前期		三枝 和彦	② 国語国文学科 日本史学科 社会情報学科 英語一～九の数字は 難易度を示すものではない 英会話A～Dの受講者数が20名を超える場合は抽選を行う。 初修者は「フランス語一」或いは「中国語一」を履修することが望ましい 英語英文・日本史指定 国語国文・社会情報指定
			60320	英語二	2	30	1・2	後期		北山 長貴	
60330			英語三	2	30	1・2	前期	三枝 和彦			
60340			英語四	2	30	1・2	後期	渡邊真由美			
60350			英語五	2	30	1・2	後期	小林 亜希			
60360			英語六	2	30	1・2	前期	今井 コレット			
60370			英語七	2	30	1・2	後期	太田 裕子			
60380			英語八	2	30	1・2	前期	太田 裕子			
60390			英語九	2	30	1・2	後期	三枝 和彦			
60400			英会話A	2	30	1・2	前期	今井 コレット			
60410			英会話B	30	1・2	前期	今井 コレット				
60420			英会話C	30	1・2	後期	今井 コレット				
60430			英会話D	30	1・2	後期	今井 コレット				
60451				異文化理解実習	1	30	1・2	集中	英文専任教員		
60460		60461	フランス語一（月曜III限）	2	30	1・2	前期	寺本 弘子			
60460		60462	”（月曜IV限）								
60470		60471	フランス語二（月曜II限）	2	30	1・2	後期	寺本 弘子			
60470		60472	”（月曜IV限）								
60480			フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子			
60490			フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子			
60500		60501	中国語一（月曜III限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
60500		60502	”（月曜IV限）					齋藤 知広			
60500		60503	”（月曜II限）					李 通江			
60500	60504	”（月曜III限）					李 通江				
60510	60511	中国語二（月曜III限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				
60510	60512	”（月曜IV限）					齋藤 知広				
60510	60513	”（月曜II限）					李 通江				
60510	60514	”（月曜III限）					李 通江				
60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広				
60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				

教養科目（令和6年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要					
共通基礎科目	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	寺本 弘子		〔 英語英文学科 〕					
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）												
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	寺本 弘子							
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）												
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	寺本 弘子							
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	寺本 弘子							
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広							
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）												
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）												
	60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広							
	60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）												
	60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広							
	60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）												
	60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広							
	60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広							
	60451		異文化理解実習	1	30	1・2	集中	英文専任教員			後期開講（2～3月）				
	保健体育	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期			村井 友樹	②	個人種目スポーツ		
60620			スポーツ実技二	個人種目スポーツ											
60630			スポーツ実技三	団体種目スポーツ											
60640			スポーツ実技四	団体種目スポーツ											
60650			スポーツ実技五	レクリエーション・スポーツ											
60660			スポーツ実技六	レクリエーション・スポーツ											
60670			スポーツ実技七	フィットネス											
60680			スポーツ実技八	フィットネス											
60690			スポーツ実技九	前期開講（8～9月）											
60700			スポーツ実技十	後期開講（2～3月）											
60710			健康理論 ※1	1					15	1・2			後期	加藤 守匡	
60720			スポーツ文化論 ※1	2					30	1・2			後期	村井 友樹	

(注) ・「○数字」は必修単位数、「□○数字」は選択必修単位数

- ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
- ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす
- ・※1「健康理論」及び「スポーツ文化論」は、卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

講義科目名称： 総合教養講座（60010）

授業コード： 60010

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			
授業のテーマ及び到達目標	<p>受講生のキャリア形成の一助として本講座を開講する。 多彩な講師による実践的かつ専門性に基づいた話を幅広く聞くことによって、教養を高め、物の見方、捉え方をより豊かなものにし、将来の進路はもとより、人としての行い方や生き甲斐等について深く考えることを目標とする。 この講座の受講により、様々な角度から、社会の潮流や諸現象を観察しようとする態度が身につく。</p>		
授業計画	別途揭示		
	タイトル		
	フリー欄		
授業概要	<p>学外の講師により、各回完結型の講義を行う。講義内容は各回担当者によって多岐にわたるが、その道の専門家としての貴重な見解が聴取できる。また、この科目は地域貢献事業の一環として、広く県民の方々にも公開される。</p>		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。		
テキスト	必要に応じて、資料等を配布する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>各界の現場で活躍する方々を講師として、毎回設定します。 毎回欠かさずに講話を聴くことがたいへん重要な講座です。 実社会での生の話が伺える貴重な機会ですので、なるべく多くの学生の履修を希望します。</p>		
評価方法	<p>課題レポート30%、授業への参加度70%。 レポート課題は、12月中に掲示または印刷物配布をもってお知らせいたします。 （レポートには各回講義に関わるテーマを選択してもらいますが、単なる感想文ではなく、受講生なりの思考を経たものを求めます。）</p>		
参考文献	各回の講師とテーマは、後期開始直前に本学ホームページに掲載します。		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・出席の取り扱いは厳正に行います（「公欠」以外の個別事情は一切考慮しません） ・高評価を得るためにはレポートテーマの選択も重要になります 		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65011

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
小峰 克之			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄	この授業では夏目漱石の「三四郎」を読んでいます。この小説は主人公が大学に入るところから始まりますので、皆さんも共感するところが多々あると思います。最初は教師が小説を読みながら授業を展開しますが、途中から学生に担当を割り当てて授業を進めていきます。	
	第2回		
	タイトル	「三四郎」 1 上京の列車で	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	「三四郎」 2 広田先生との出会い	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	「三四郎」 3 野々宮君	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	「三四郎」 4 里見美祢子との出会い	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	「三四郎」 5 佐々木与次郎	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	「三四郎」 6 学者の生活	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	「三四郎」 7 野々宮よし子		
フリー欄			
第9回			
タイトル	「三四郎」 8 借家探し		
フリー欄			
第10回			
タイトル	「三四郎」 9 引っ越し		
フリー欄			
第11回			
タイトル	「三四郎」 10 美祢子との関わり		
フリー欄			

	第12回
	タイトル 「三四郎」 1 1 菊見
	フリー欄
	第13回
	タイトル 「三四郎」 1 2 迷える羊
	フリー欄
	第14回
	タイトル 「三四郎」 1 3 偉大なる暗闇
	フリー欄
	第15回
	タイトル まとめ
	フリー欄
授業概要	本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で配布された資料に前もって目を通しておく。また発表担当者は担当箇所の発表を準備する。授業後は授業内容を整理しておく。
テキスト	必要に応じて授業で配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。
評価方法	授業での発表（100%）により評価する。
参考文献	授業の中で適宜指示する。
備考	

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65012

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
山本 淳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>																																														
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>導入 郷土資料について</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>蝦夷恵曾谷日誌の概要</td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>明治初年の米沢藩について</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>資料をよむ 明治政府の通達</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>資料を読む 米沢藩の対応</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>資料を読む 見分隊結成の段</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>資料を読む 東京での諸手続き</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>資料を読む 横浜港入港の段</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>資料を読む 乗船中の様子</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>資料を読む 函館港入港後</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>資料を読む 函館戦禍の様子</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>資料を読む 函館～山越内</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	導入 郷土資料について	フリー欄	蝦夷恵曾谷日誌の概要	タイトル	明治初年の米沢藩について	フリー欄		タイトル	資料をよむ 明治政府の通達	フリー欄		タイトル	資料を読む 米沢藩の対応	フリー欄		タイトル	資料を読む 見分隊結成の段	フリー欄		タイトル	資料を読む 東京での諸手続き	フリー欄		タイトル	資料を読む 横浜港入港の段	フリー欄		タイトル	資料を読む 乗船中の様子	フリー欄		タイトル	資料を読む 函館港入港後	フリー欄		タイトル	資料を読む 函館戦禍の様子	フリー欄		タイトル	資料を読む 函館～山越内	フリー欄	
タイトル	導入 郷土資料について																																														
フリー欄	蝦夷恵曾谷日誌の概要																																														
タイトル	明治初年の米沢藩について																																														
フリー欄																																															
タイトル	資料をよむ 明治政府の通達																																														
フリー欄																																															
タイトル	資料を読む 米沢藩の対応																																														
フリー欄																																															
タイトル	資料を読む 見分隊結成の段																																														
フリー欄																																															
タイトル	資料を読む 東京での諸手続き																																														
フリー欄																																															
タイトル	資料を読む 横浜港入港の段																																														
フリー欄																																															
タイトル	資料を読む 乗船中の様子																																														
フリー欄																																															
タイトル	資料を読む 函館港入港後																																														
フリー欄																																															
タイトル	資料を読む 函館戦禍の様子																																														
フリー欄																																															
タイトル	資料を読む 函館～山越内																																														
フリー欄																																															

	タイトル	資料を読む 山越内～長万部
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	資料を読む 長万部～黒松内
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	資料を読む 黒松内～恵曾谷
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	資料を読む まとめ
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	毎時読んだ箇所について、読みの復習を確実に行ってください。	
テキスト	印刷して渡します	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	毎回の読みの練習の成果を診断して行います	
参考文献	根岸茂夫『近世版本くずし字大字典』（柏書房）	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65013

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
佐々木 紀一			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	草書は読める！短冊とは。ア行の仮名の手習	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	ア行・カ行の手習、短冊解読	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	カ行・サ行の手習、短冊解読	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	サ行・タ行の手習、短冊解読	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	タ行・ナ行の手習、短冊解読	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	ナ行・ハ行の手習、短冊解読	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	ハ行・マ行の手習、短冊解読	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	ヤ行・ラ行の手習、短冊解読	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	ワ行の手習、短冊解読		
フリー欄			
第10回			
タイトル	短冊解読		
フリー欄			
第11回			
タイトル	短冊解読		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	短冊解読
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	短冊、懐紙解読
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	古筆切解読
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	古筆切解読、手紙に挑戦
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	毎週、短冊 2 - 3 葉課題も出します。学んだ字の復習も必要	
テキスト	特になし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	期末テスト（短冊の解読）	
参考文献		
備考	筆ペン、ノートを各自準備	

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65014

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
村瀬 桃子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>																																												
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>性的マイノリティの権利獲得の歴史を知る①</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>1960年代のアメリカでは、性的マイノリティの当事者にどのような困難があったのだろうか</td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>性的マイノリティの権利獲得の歴史を知る②</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>1970年代のアメリカでは、性的マイノリティの当事者にどのような困難があったのだろうか</td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>自己紹介でパワーポイントに慣れる①</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>地元紹介も含めた自己紹介を、パワーポイントを使って行う</td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>自己紹介でパワーポイントに慣れる②</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本における性的マイノリティ①</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>現代の日本でも様々な問題を当事者が抱えていることを知る (LGB当事者)。</td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本における性的マイノリティ②</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>現代の日本でも様々な問題を当事者が抱えていることを知る (T当事者)。</td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>日本における性的マイノリティ③</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>Xジェンダーやアセクシャルの当事者が出演するVTRなどを視聴し、当事者の抱える問題を知る。 (このあたりで、図書館ツアー、文献の探し方も行う)</td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>性暴力・性被害の問題①</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>刑法が改正されても残る問題を知る。</td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>性暴力・性被害の問題②</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>デートDVについて知る。</td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>性暴力・性被害の問題③</td> </tr> </table>			タイトル	オリエンテーション	フリー欄		タイトル	性的マイノリティの権利獲得の歴史を知る①	フリー欄	1960年代のアメリカでは、性的マイノリティの当事者にどのような困難があったのだろうか	タイトル	性的マイノリティの権利獲得の歴史を知る②	フリー欄	1970年代のアメリカでは、性的マイノリティの当事者にどのような困難があったのだろうか	タイトル	自己紹介でパワーポイントに慣れる①	フリー欄	地元紹介も含めた自己紹介を、パワーポイントを使って行う	タイトル	自己紹介でパワーポイントに慣れる②	フリー欄		タイトル	日本における性的マイノリティ①	フリー欄	現代の日本でも様々な問題を当事者が抱えていることを知る (LGB当事者)。	タイトル	日本における性的マイノリティ②	フリー欄	現代の日本でも様々な問題を当事者が抱えていることを知る (T当事者)。	タイトル	日本における性的マイノリティ③	フリー欄	Xジェンダーやアセクシャルの当事者が出演するVTRなどを視聴し、当事者の抱える問題を知る。 (このあたりで、図書館ツアー、文献の探し方も行う)	タイトル	性暴力・性被害の問題①	フリー欄	刑法が改正されても残る問題を知る。	タイトル	性暴力・性被害の問題②	フリー欄	デートDVについて知る。	タイトル	性暴力・性被害の問題③
タイトル	オリエンテーション																																												
フリー欄																																													
タイトル	性的マイノリティの権利獲得の歴史を知る①																																												
フリー欄	1960年代のアメリカでは、性的マイノリティの当事者にどのような困難があったのだろうか																																												
タイトル	性的マイノリティの権利獲得の歴史を知る②																																												
フリー欄	1970年代のアメリカでは、性的マイノリティの当事者にどのような困難があったのだろうか																																												
タイトル	自己紹介でパワーポイントに慣れる①																																												
フリー欄	地元紹介も含めた自己紹介を、パワーポイントを使って行う																																												
タイトル	自己紹介でパワーポイントに慣れる②																																												
フリー欄																																													
タイトル	日本における性的マイノリティ①																																												
フリー欄	現代の日本でも様々な問題を当事者が抱えていることを知る (LGB当事者)。																																												
タイトル	日本における性的マイノリティ②																																												
フリー欄	現代の日本でも様々な問題を当事者が抱えていることを知る (T当事者)。																																												
タイトル	日本における性的マイノリティ③																																												
フリー欄	Xジェンダーやアセクシャルの当事者が出演するVTRなどを視聴し、当事者の抱える問題を知る。 (このあたりで、図書館ツアー、文献の探し方も行う)																																												
タイトル	性暴力・性被害の問題①																																												
フリー欄	刑法が改正されても残る問題を知る。																																												
タイトル	性暴力・性被害の問題②																																												
フリー欄	デートDVについて知る。																																												
タイトル	性暴力・性被害の問題③																																												

	フリー欄	盗撮による被害があることを知る。
	第12回	
	タイトル	性暴力・性被害の問題④
	フリー欄	主に子どもを対象にしたグルーミングの手口を知る。
	第13回	
	タイトル	パワーポイントによる発表①
	フリー欄	興味を持ったことについて、調べて発表する。
	第14回	
	タイトル	パワーポイントによる発表②
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	パワーポイントによる発表③
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	新聞等の報道を常に追っておく。図書館などで自分が興味を持ったテーマについて調べておく。	
テキスト	テキストは使用しない。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	2回の発表内容と毎回の感想（＝出席）によって評価する。	
参考文献	授業に関連する参考文献は、配布資料に載せる。	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65015

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
高畑 早希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス ブックトークとは/発表者決め	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	選書・テーマ設定	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	発表の練習	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	受講生によるブックトーク①	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	受講生によるブックトーク②	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	受講生によるブックトーク③	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	受講生によるブックトーク④	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	受講生によるブックトーク⑤	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	ブックトークをZINEにしてみよう——ZINEとはなにか		
フリー欄			
第10回			
タイトル	ZINEの制作と個別面談①		
フリー欄			
第11回			
タイトル	ZINEの制作と個別面談②		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	ZINEの制作と個別面談③
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	ZINEの制作と個別面談④
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	合評会——お互いの作品を批評してみよう
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ・展示
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容	なし	
時間外学習	<p>受講者はブックトークの担当回を成功させるために、紹介したい本を選定して事前に読み込むこと。また、多様な本の形態を調べ、各自の最終課題（ZINE制作）へ反映させること。</p>	
テキスト	なし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	授業内の口頭発表30%/ディスカッションへの参加度10%/最終課題（ZINE）60%	
参考文献	大橋崇行『中高生のための本の読み方——読書案内・ブックトーク・PISA型読解』ひつじ書房、2021年	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65016

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
大沼 太兵衛			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	導入、自己紹介、アイスブレイク	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	アカデミックスキルとは？	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：考える(1)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：考える(2)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：読む(1)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：読む(2)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：調べる	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：書く(1)	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：書く(2)		
フリー欄			
第10回			
タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：批判する		
フリー欄			
第11回			
タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：発表する・議論する(1)		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：発表する・議論する(2)
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：発表する・議論する(3)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	アカデミックスキル向上のためのアクティビティ：発表する・議論する(4)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	全体まとめ
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>他の履修科目での学びにおいて、この教養ゼミで学んだスキルを活かすよう努めてください。その他、発表に向けては準備作業が必要になります。</p>	
テキスト	なし。必要に応じて配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	授業への参加度（出席率、積極性、議論への貢献度等）で総合的に評価します。	
参考文献	<p>佐藤望編著『アカデミック・スキルズ（第3版）：大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2020年、1,100円（税込）ISBN 978-4-7664-2656-4 林直享『学び合い、発信する技術：アカデミックスキルの基礎』岩波書店、2022年、990円（税込）ISBN 978-4-00-500959-6 その他、参考文献は適宜紹介する。</p>	
備考	<p>出欠管理、諸連絡等はすべてGoogle Classroom上で行うため、各自Googleアカウントを一つ用意すること。詳細は初回授業で説明します。 授業計画は、授業進捗、受講者数その他の事情によって随時変更の可能性があります。</p>	

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65017

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
後藤 和也			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>																																														
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>大学におけるレポート作成の基本</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>プレゼンテーション・ディスカッションの方法</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>文献検索の方法 (図書館ツアー)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	オリエンテーション	フリー欄		タイトル	大学におけるレポート作成の基本	フリー欄		タイトル	プレゼンテーション・ディスカッションの方法	フリー欄		タイトル	文献検索の方法 (図書館ツアー)	フリー欄		タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)	フリー欄																									
タイトル	オリエンテーション																																														
フリー欄																																															
タイトル	大学におけるレポート作成の基本																																														
フリー欄																																															
タイトル	プレゼンテーション・ディスカッションの方法																																														
フリー欄																																															
タイトル	文献検索の方法 (図書館ツアー)																																														
フリー欄																																															
タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)																																														
フリー欄																																															
タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)																																														
フリー欄																																															
タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)																																														
フリー欄																																															
タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)																																														
フリー欄																																															
タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)																																														
フリー欄																																															
タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)																																														
フリー欄																																															
タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)																																														
フリー欄																																															

	タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	プレゼンテーションとディスカッション (各自の担当箇所ごとに実施)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	授業全体のまとめ
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。	
テキスト	女性のキャリアに関する新書をテキストに指定する予定 (中古で数百円程度のもの)。詳細は授業初回に示します。	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	毎回の授業中における発言内容の質 (50%)、授業におけるプレゼンテーションの質 (50%) で評価します。	
参考文献		
備考	受講人数に応じて授業内容等に変更が生じる場合があります。	

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65018

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
高橋 永行			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス(今年度の概要)	
	フリー欄	teams利用の説明をする。自己紹介をしよう。	
	第2回		
	タイトル	ゼミで取り上げる予定のトピックスについて話し合おう	
	フリー欄	広い意味での言語文化に触れる	
	第3回		
	タイトル	SNSと適切な表現、言語景観、コミュニケーションゲーム、ヴァーチャル言語とリアル言語の対照などからトピックスをしばり込もう	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	図書館攻略ツアー(学内施設探訪)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	以降、試行例	
	フリー欄	SNSで目にとまった日本語クイズ	
	第6回		
	タイトル	言語景観について考える	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	アニメ作品と日本語の特徴(敬語)に触れる	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	アニメ作品と日本語の特徴(言葉遣い)を考える		
フリー欄			
第9回			
タイトル	アニメ作品と日本語の色彩を学ぶ		
フリー欄			
第10回			
タイトル	アニメ作品と方言で多様性と理解を考える		
フリー欄			
第11回			
タイトル	カードゲームでコミュニケーション力を高める		
フリー欄	ワードウルフ		

	第12回
	タイトル カタカナ言葉制限ゲームで表現力を高める
	フリー欄
	第13回
	タイトル 音声ゲームで理解力を高める
	フリー欄
	第14回
	タイトル いわゆる推理ゲームで洞察力を高める
	フリー欄
	第15回
	タイトル 振り返りとまとめ
	フリー欄
授業概要	本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	時間を見つけて関心のあるテーマについて多様なメディアを調べてみよう。
テキスト	teams利用でデータ資料等配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。
評価方法	出席状況と参加姿勢を評価する。
参考文献	適宜提示する。
備考	

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65019

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
今井 瞳良			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	ボードゲームで遊ぶ：受講生の人数に合わせてゲームを選定する	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	映画『恋はデジャ・ブ』を見る	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	文献購読：「考える」って何？	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	文献購読：なぜ「学ぶ」のか？	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	新書レポート①：読む前に篇	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	ボードゲームで遊ぶ：受講生の人数に合わせてゲームを選定する	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	文献購読：受講生の関心に合わせてテキストを選定する	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	ボードゲームで遊ぶ：受講生の人数に合わせてゲームを選定する		
フリー欄			
第10回			
タイトル	文献購読：受講生の関心に合わせてテキストを選定する		
フリー欄			
第11回			
タイトル	ボードゲームで遊ぶ：受講生の人数に合わせてゲームを選定する		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	文献購読：受講生の関心に合わせてテキストを選定する
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	ボードゲームで遊ぶ：受講生の人数に合わせてゲームを選定する
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	新書レポート②：読んだ後に篇
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	文献購読：本当の「自分」とは？
	フリー欄	
授業概要	本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。	
実務経験及び授業の内容	様々な教材から「大学で学ぶ」ということを参加者全員で話し合い、考えるレッスンを行います。大きく3つの内容で進めていきます。①授業中に文章を読んだり、映像を見たりした後で、順番に意見・感想を聞いていく「文献購読」。②新書を一冊選んで読む前と読んだ後にプレゼンをしてもらう「新書レポート」。③ボードゲームを取り入れた「ボードゲームで遊ぶ」。	
時間外学習	ネットや新聞などで見かけた気になるニュースを、見出しだけではなく全文読む。	
テキスト	プリントを配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。	
評価方法	授業への参加（60%）、新書レポート（40%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65021

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
北山 長貴			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	キャリアガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	時間割指導 教員紹介：タヴァコーリ	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	教員紹介：阿部・松井	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	教員紹介：渡部・小林	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	教員紹介：北山・畑田 映画「E.T.」前半視聴	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	健康セミナー	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	映画「E.T.」後半視聴（60分）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	「オズの魔法使い」前半視聴（60分）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	「オズの魔法使い」後半視聴		
フリー欄			
第10回			
タイトル	「メリーポピンズ」前半視聴		
フリー欄			
第11回			
タイトル	「メリーポピンズ」後半視聴		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	「サウンドオブミュージック」前半視聴
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	「サウンドオブミュージック」後半視聴
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	「ウエストサイド物語」前半視聴
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	「ウエストサイド物語」後半視聴
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	新聞やニュース、メディア等をチェックし、扱った内容が身近にあることを確認、理解すること。	
テキスト	なし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	出席50%：遅刻は3回で1回の欠席とみなします。公欠等を除き5回の欠席で失格となります。発表50%：皆さんの意見を発表してもらいます。	
参考文献	なし	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65022

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
阿部 隆夫			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	全体共通内容	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	全体共通内容	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	全体共通内容	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	全体共通内容	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	TOEIC L&R 導入	
	フリー欄	TOEICの攻略方法	
	第6回		
	タイトル	全体共通内容	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	全体共通内容	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	全体共通内容	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	全体共通内容		
フリー欄			
第10回			
タイトル	全体共通内容		
フリー欄			
第11回 班別セミナー			
タイトル	TOEIC攻略方法		
フリー欄	Parts 2 & 3		
第12回			

	タイトル	TOEIC攻略方法
	フリー欄	Part 4
	第13回	
	タイトル	TOEIC攻略方法
	フリー欄	Part 5
	第14回	
	タイトル	TOEIC攻略方法
	フリー欄	Part 6 & 7
	第15回	
	タイトル	TOEIC攻略方法
	フリー欄	Part 7
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容	<p>TOEFL, TOEIC公式試験会場の元運営責任者および最高得点取得の経験に基づき、英語圏の大学出身者が日本語の参考書には掲載されていない訓練方法、攻略方法を伝授します。</p>	
時間外学習	<p>問題集の予習と復習</p>	
テキスト	<p>「公式TOEIC Listening & Reading問題集 Vol.10」(2023年、ISBN 978-4-906033-71-3)</p>	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	<p>小テストと個別発表</p>	
参考文献	<p>なし</p>	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65024

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
渡邊 真由美			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>																																														
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>教務ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>時間割指導</td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>教員紹介</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>Tavakoli先生・畑田先生</td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>休講</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>TOEIC IP振替</td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>休講</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>TOEIC IP 振替</td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>教員紹介</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>阿部先生・渡邊</td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>教員紹介</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>北山先生・松井先生</td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>教員紹介</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>小林先生・教養ゼミ希望調査</td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>イントロダクション</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>英語英文学科で何を学ぶのか、について。 英語で書かれた文章を読む、ということはどういうことかについて考える。</td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>英語のジョーク</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>英語で書かれたジョークを読む</td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>英語に翻訳された俳句を読む</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>英語に翻訳された俳句を読んで、英語で俳句を作る上での工夫を学ぶ。</td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>英語に翻訳された俳句を読む</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td>日本語のオリジナルの俳句との違いを考える。</td> </tr> </table>			タイトル	教務ガイダンス	フリー欄	時間割指導	タイトル	教員紹介	フリー欄	Tavakoli先生・畑田先生	タイトル	休講	フリー欄	TOEIC IP振替	タイトル	休講	フリー欄	TOEIC IP 振替	タイトル	教員紹介	フリー欄	阿部先生・渡邊	タイトル	教員紹介	フリー欄	北山先生・松井先生	タイトル	教員紹介	フリー欄	小林先生・教養ゼミ希望調査	タイトル	イントロダクション	フリー欄	英語英文学科で何を学ぶのか、について。 英語で書かれた文章を読む、ということはどういうことかについて考える。	タイトル	英語のジョーク	フリー欄	英語で書かれたジョークを読む	タイトル	英語に翻訳された俳句を読む	フリー欄	英語に翻訳された俳句を読んで、英語で俳句を作る上での工夫を学ぶ。	タイトル	英語に翻訳された俳句を読む	フリー欄	日本語のオリジナルの俳句との違いを考える。
タイトル	教務ガイダンス																																														
フリー欄	時間割指導																																														
タイトル	教員紹介																																														
フリー欄	Tavakoli先生・畑田先生																																														
タイトル	休講																																														
フリー欄	TOEIC IP振替																																														
タイトル	休講																																														
フリー欄	TOEIC IP 振替																																														
タイトル	教員紹介																																														
フリー欄	阿部先生・渡邊																																														
タイトル	教員紹介																																														
フリー欄	北山先生・松井先生																																														
タイトル	教員紹介																																														
フリー欄	小林先生・教養ゼミ希望調査																																														
タイトル	イントロダクション																																														
フリー欄	英語英文学科で何を学ぶのか、について。 英語で書かれた文章を読む、ということはどういうことかについて考える。																																														
タイトル	英語のジョーク																																														
フリー欄	英語で書かれたジョークを読む																																														
タイトル	英語に翻訳された俳句を読む																																														
フリー欄	英語に翻訳された俳句を読んで、英語で俳句を作る上での工夫を学ぶ。																																														
タイトル	英語に翻訳された俳句を読む																																														
フリー欄	日本語のオリジナルの俳句との違いを考える。																																														

	第12回
	タイトル 英語に翻訳された日本語の小説を読む
	フリー欄 芥川龍之介「蜘蛛の糸」を英語で読む。
	第13回
	タイトル 英語に翻訳された日本語の小説を読む
	フリー欄 芥川龍之介「蜘蛛の糸」を英語で読む。 オリジナルとの違いを考える。
	第14回
	タイトル 英語と日本語の違いを考える
	フリー欄 英語で書かれたもの、日本語で書かれたものについてどのような違いがあるのか、ディスカッションを通して考える。
	第15回
	タイトル 授業のまとめ
	フリー欄 これまでの授業を通して考えたことをまとめる。
授業概要	本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。当クラスでは、日本語から英語へと翻訳された文章を読むことを通して、英語と日本語の違いを感じてもらいたいと思います。また、日本語の文章と英語に翻訳されたものの印象の違いを討論することを通して発表能力を高めていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	英文の単語の意味を調べてきてください。
テキスト	授業内で資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。
評価方法	適宜、感想や自分の訳を提出してもらいます。その小レポートで判断します。単位認定の前提として、全授業回数数の三分の二以上の出席を求めます。
参考文献	英和辞典（高校時代に使用していたもので可）
備考	

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65025

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
畑田 秀将			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	教務（時間割指導）	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	教員紹介（タヴァコーリ・畑田）	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	TOEIC-IP試験の振替	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	TOEIC-IP試験の振替	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	教員紹介（阿部・渡邊）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	教員紹介（北山・松井）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	教員紹介（小林）・個別ゼミ調査	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	自己紹介（故郷紹介・地元企業・将来の夢）・目標の設定	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	図書館サービスの企画・制作		
フリー欄			
第10回			
タイトル	大学図書館の見学		
フリー欄			
第11回			
タイトル	公共図書館の見学		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	学校図書館の見学
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	実践
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	成果報告会
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	上級生との情報交流会
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容	<p>大学・公共・学校図書館のいずれかの図書館サービスを企画し実践する。</p>	
時間外学習	<p>グループワークが中心となる。グループや自身で設定した目標を達成するため、毎週、計画に沿って準備し、過程や成果を次週の授業の際に報告できるようにしておくこと。</p>	
テキスト	<p>プリントを適宜配布する。</p>	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	<p>プレゼンテーション（50%）、コミュニケーション（全体の取りまとめ・発言・受け答え・自他へのフォローなど：50%）</p>	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65026

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
小林 亜希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	①教務 時間割指導	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	②教員紹介 (タヴァコーリ/畑田)	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	③TOEIC IP	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	④TOEIC IP	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	⑤教員紹介 (阿部/渡邊)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	⑥教員紹介 (北山/松井)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	⑦教員紹介 (小林)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	⑧個別ゼミ：映画で読み解く英米文化-カルチュラル・スタディーズ入門	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	⑨映画『ズートピア』で学ぶ多文化主義①-ジェンダーについて		
フリー欄			
第10回			
タイトル	⑩映画『ズートピア』で学ぶ多文化主義②-人種/エスニシティについて		
フリー欄			
第11回			
タイトル	⑪映画『ズートピア』で学ぶ多文化主義③-コメントの発表と議論		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	⑫映画『リトル・ダンサー』で学ぶイギリス文化—英語と階級
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	⑬映画『リトル・ダンサー』で学ぶイギリス文化—メリトクラシーについて
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	⑭映画『リトル・ダンサー』で学ぶイギリス文化—コメントの発表と議論
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	⑮授業のまとめ
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内およびTeamsで配布する資料を予め読んでおくこと。 ・授業で発表する内容を予め準備してくること。 	
テキスト	適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	授業内での発表（50%）、リアクション・ペーパーの内容（50%）。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65027

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
タヴァコーリ, マーニ			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	The goal of this seminar is for students to find fun ways of learning English and improving communication through games, music and other social activities. The goal is for students to be able to communicate in English with confidence and express themselves effectively.		
授業計画	第1回		
	タイトル	教務 時間割指導 (合同)	
	フリー欄	Students will be instructed about the requirements for graduation and be given advice on how to select courses.	
	第2回		
	タイトル	Introduction to Seminar (合同)	
	フリー欄	Professor Hatada and Professor Tavakoli will introduce the contents of their seminars to all 1st year students.	
	第3回		
	タイトル	TOEIC IPの振替	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	TOEIC IPの振替	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	Introduction to Seminar(合同)	
	フリー欄	Professor Abe and Professor Watanabe will introduce the contents of their seminars to all 1st year students.	
	第6回		
	タイトル	Introduction to Seminar(合同)	
	フリー欄	Professor Kitayama and Professor Matsui will introduce the contents of their seminars to all 1st year students.	
	第7回		
	タイトル	Introduction to Seminar(合同)	
フリー欄	Professor Kobayashi will introduce the content of his seminar to all 1st year students. Students will then be asked to fill a questionnaire and indicate their preference for individual seminar for the rest of the term		
第8回			
タイトル	Icebreaker		
フリー欄	This will be the first individual seminar. We will play icebreaker games to get to know each other.		
第9回			
タイトル	Worst Case Scenario		
フリー欄	Students will play the Worst Case Scenario game to improve vocabulary and grammar. The last part of class will be practice for the TOEIC test.		
第10回			
タイトル	Alien Invader Game		
フリー欄	Students will play the Alien Invader game to improve vocabulary and grammar. The last part of class will be practice for the TOEIC		

	test.
	第11回
タイトル	Fact or Crap
フリー欄	Students will play the Fact or Crap game to improve vocabulary and grammar. The last part of class will be practice for the TOEIC test.
	第12回
タイトル	Risk
フリー欄	Students will play the Risk game to improve vocabulary and grammar. The last part of class will be practice for the TOEIC test.
	第13回
タイトル	Scrabble
フリー欄	Students will play the Scrabble game to improve vocabulary and grammar. The last part of class will be practice for the TOEIC test.
	第14回
タイトル	English Childrens Songs
フリー欄	Students will study how to sing and teach English childrens songs. The last part of class will be practice for the TOEIC test.
	第15回
タイトル	English Childrens Games
フリー欄	Students will study how to play and teach English childrens games. The last part of class will be practice for the TOEIC test.
授業概要	The focus of this seminar is to improve English vocabulary, grammar and communication skills through playing variious board and other games. A segment of each class will also be given TOEIC coaching to help students prepare for further education or future careers.
実務経験及び授業の内容	Students will learn how to communicate effectively while playing games, music and other social activities.
時間外学習	Students will be asked to prepare a presentation and paper once each term.
テキスト	There is no textbook for this class.
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。
評価方法	75% of the grade is active participation in class. 25% is presentation and paper.
参考文献	
備考	

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65031

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
桑林 賢治			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	パソコン操作の基礎	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	資料の探し方	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	城下町絵図	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	旧版地形図	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	地理院地図	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	米沢の農業	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	米沢の工業	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	米沢の商業		
フリー欄			
第10回			
タイトル	キャンパス周辺の巡検		
フリー欄			
第11回			
タイトル	キャンパス周辺の巡検		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	キャンパス周辺の巡検
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	地図の作成
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	課題発表
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理してください。	
テキスト	資料を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	担当する報告の内容（50%）、討論への参加度（50%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65032

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
小林 文雄			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>																																																																																										
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">ガイダンスーテーマの提示、授業内容の説明</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3">テーマ「現代まで受け継がれてきたさまざまな芸能・音楽・楽器と触れあって、いろいろな楽しみ方をさがす」</td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">大学での学びに慣れよう</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">「読む」「調べる」「考える」</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3">わからないことや知りたいことを調べるにはどうすればよいか、説明します。(辞書やインターネットでの調べ方も含みます。)</td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">レジュメやレポートの書き方</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3">自分の考えや誰かに伝えたいことを文章にまとめる際の留意点について説明します。</td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">受講生による口頭報告(プレゼンテーション)と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">受講生による口頭報告(プレゼンテーション)と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">受講生による口頭報告(プレゼンテーション)と質疑応答</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">伝統芸能の鑑賞と体験</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3">演劇(歌舞伎・狂言など)をDVDまたは生で鑑賞</td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">伝統芸能の鑑賞と体験</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3">和楽器(津軽三味線、箏など)の生演奏を聴き、習う体験</td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">伝統芸能の鑑賞と体験</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">受講生による実践ーテーマの選定と発表</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3">受講生が各自の関心に応じて、グループを組み、グループごとにテーマを</td> </tr> </table>			タイトル	ガイダンスーテーマの提示、授業内容の説明			フリー欄	テーマ「現代まで受け継がれてきたさまざまな芸能・音楽・楽器と触れあって、いろいろな楽しみ方をさがす」			タイトル	大学での学びに慣れよう			フリー欄				タイトル	「読む」「調べる」「考える」			フリー欄	わからないことや知りたいことを調べるにはどうすればよいか、説明します。(辞書やインターネットでの調べ方も含みます。)			タイトル	レジュメやレポートの書き方			フリー欄	自分の考えや誰かに伝えたいことを文章にまとめる際の留意点について説明します。			タイトル	受講生による口頭報告(プレゼンテーション)と質疑応答			フリー欄				タイトル	受講生による口頭報告(プレゼンテーション)と質疑応答			フリー欄				タイトル	受講生による口頭報告(プレゼンテーション)と質疑応答			フリー欄				タイトル	伝統芸能の鑑賞と体験			フリー欄	演劇(歌舞伎・狂言など)をDVDまたは生で鑑賞			タイトル	伝統芸能の鑑賞と体験			フリー欄	和楽器(津軽三味線、箏など)の生演奏を聴き、習う体験			タイトル	伝統芸能の鑑賞と体験			フリー欄				タイトル	受講生による実践ーテーマの選定と発表			フリー欄	受講生が各自の関心に応じて、グループを組み、グループごとにテーマを		
タイトル	ガイダンスーテーマの提示、授業内容の説明																																																																																										
フリー欄	テーマ「現代まで受け継がれてきたさまざまな芸能・音楽・楽器と触れあって、いろいろな楽しみ方をさがす」																																																																																										
タイトル	大学での学びに慣れよう																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	「読む」「調べる」「考える」																																																																																										
フリー欄	わからないことや知りたいことを調べるにはどうすればよいか、説明します。(辞書やインターネットでの調べ方も含みます。)																																																																																										
タイトル	レジュメやレポートの書き方																																																																																										
フリー欄	自分の考えや誰かに伝えたいことを文章にまとめる際の留意点について説明します。																																																																																										
タイトル	受講生による口頭報告(プレゼンテーション)と質疑応答																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	受講生による口頭報告(プレゼンテーション)と質疑応答																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	受講生による口頭報告(プレゼンテーション)と質疑応答																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	伝統芸能の鑑賞と体験																																																																																										
フリー欄	演劇(歌舞伎・狂言など)をDVDまたは生で鑑賞																																																																																										
タイトル	伝統芸能の鑑賞と体験																																																																																										
フリー欄	和楽器(津軽三味線、箏など)の生演奏を聴き、習う体験																																																																																										
タイトル	伝統芸能の鑑賞と体験																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	受講生による実践ーテーマの選定と発表																																																																																										
フリー欄	受講生が各自の関心に応じて、グループを組み、グループごとにテーマを																																																																																										

		決めて、それを実践する 例) 和楽器の合奏、ものづくり、話芸に挑戦、など
	第12回	
	タイトル	受講生による実践一練習
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	受講生による実践一練習
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	受講生による実践一練習
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	実践の成果発表会
	フリー欄	
授業概要	本学の全専任教員が分担して、所屈学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。	
実務経験及び授業の内容	私自身は伝統芸能に関する実務経験はありませんが、伝統芸能と関わりをもっていらっしゃる方を外部講師・ゲストスピーカーとしてお招きして、お話を伺ったり、ワークショップを行う機会を設けるようにしたいと思います。	
時間外学習	授業で取り上げた作品や、受講生が口頭報告で紹介した情報については、自分でも図書やインターネットなどで調べて、授業内容を振り返って関心をひろげてください。	
テキスト	なし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。	
評価方法	口頭報告 20% 成果報告会での発表と成果物 80%	
参考文献		
備考	第5回以降は、授業の進行に応じて、多少内容が前後することがあります。	

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65033

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
吉田 敏			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	イントロダクション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	地元の文化財を調べよう	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	仏像を調べよう	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	絵画資料を調べよう	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	考古資料を調べよう	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	建物を調べよう	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	古い資料を読もう その1	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	古い資料を読もう その2	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	古い資料を読もう その3		
フリー欄			
第10回			
タイトル	古い資料を読もう その4		
フリー欄			
第11回			
タイトル	古い資料を読もう その5		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	古い資料を読もう その6
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	仮想展覧会を作ろう 企画
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	仮想展覧会を作ろう 展示内容
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	仮想展覧会を作ろう 発表
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	積極的に調べたりしてみる。	
テキスト	必要に応じてプリントなどを配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポートなど（50%）	
参考文献	必要に応じて講義の中で紹介する。	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65034

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
布施 賢治			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	授業の進め方、国策映画などをみるにさいしての注意点	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	「新しき土」の鑑賞	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	「新しき土」の質疑応答	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	「決戦の大空へ」の鑑賞	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	「決戦の大空へ」の質疑応答	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	アメリカの「ミッドウエイ海戦」「ドキュメント 真珠湾攻撃」の鑑賞	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	「ミッドウエイ海戦」「ドキュメント 真珠湾攻撃」の質疑応答	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	戦後の文化映画「家計の数学」「日本敗れたれど」の鑑賞	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	「家計の数学」「日本敗れたれど」の質疑応答		
フリー欄			
第10回			
タイトル	戦後の民主映画「青い山脈」の鑑賞（1）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	「青い山脈」の鑑賞（2）		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	「青い山脈」の質疑応答
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	企業の戦争責任について考える
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	マスメディアの戦争責任について考える
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	授業のまとめ
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容	<p>戦前の国策映画とアメリカの戦時映画、戦後直後の民主化を促す文化映画、娯楽映画をみて、映像が戦争や民主化に果たした役割について広く考える。</p>	
時間外学習	<p>ふだんから、戦時・戦後の映画やメディアについて関心をもって接してください。</p>	
テキスト	<p>必要に応じ教員が用意します。</p>	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	<p>ゼミ内での発言（50%）と期末レポート（50%）</p>	
参考文献	<p>授業内で指示します。</p>	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65035)

授業コード： 65035

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
原 淳一郎			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	受講学生の郷土料理を調査する 1	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	受講学生の郷土料理を調査する 2	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	受講学生の郷土料理を調査する 3	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	プレゼン用の資料を作成する 1	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	プレゼン用の資料を作成する 2	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	プレゼン用の資料を作成する 3	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	各自の郷土料理についてプレゼンする	
	フリー欄	プレゼンだけでなく、可能な限り郷土料理を調理し、ないしは用意し、実食する	
第9回			
タイトル	米沢の町並みを歩き、郷土料理を食す		
フリー欄			
第10回			
タイトル	山形県の郷土料理を調査する 1		
フリー欄			
第11回			
タイトル	山形県の郷土料理を調査する 2		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	プレゼン用の資料を作成する 1
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	プレゼン用の資料を作成する 2
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	プレゼン用の資料を作成する 3
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	各自の調査した山形県の郷土料理についてプレゼンする
	フリー欄	プレゼンだけでなく、可能な限り郷土料理を調理し、ないしは用意し、実食する
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容	<p>受講生自身の郷土料理と山形県の郷土料理を調査し、資料を作成して、プレゼンテーションをおこなう。また可能な範囲で、実際に調理し、実食することも目指している。</p>	
時間外学習	<p>2回のプレゼンテーションのための資料作成をすること。郷土料理や山形県の郷土料理を調べるために、様々な手段を講じて調査すること。</p>	
テキスト	なし	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	2回のプレゼンテーションの内容、ならびに討論における様子を総合的に判断する	
参考文献	なし	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65036

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
山田 彩起子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄	この授業では、日本の世界文化遺産を調べながら日本史を学びます。研究報告の方法や、参考文献の探し方・使い方などを説明します。	
	第2回		
	タイトル	教員による研究報告	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	学生による研究報告	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	学生による研究報告	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	学生による研究報告	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	学生による研究報告	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	学生による研究報告	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	学生による研究報告	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	学生による研究報告		
フリー欄			
第10回			
タイトル	学生による研究報告		
フリー欄			
第11回			
タイトル	学生による研究報告		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	学生による研究報告
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	学生による研究報告
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	学生による研究報告
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	学生による研究報告
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>自分が報告担当する世界文化遺産についてはもちろんですが、他の学生が報告担当する世界文化遺産についても積極的に調べて、授業でのディベートに備えてください。</p>	
テキスト	<p>報告者が作成したレジュメ。</p>	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	<p>授業での報告70%、討論への参加度30%</p>	
参考文献	<p>授業中に提示する。</p>	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65041

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
石崎 毅			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション (授業の進め方, 論理的思考方略の概要)	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	推論 (位置関係)	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	推論 (順序)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	推論 (正誤)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	推論 (勝敗)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	推論 (内訳)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	推論 (整数)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	推論 (整数)	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	集合		
フリー欄			
第10回			
タイトル	特殊算		
フリー欄			
第11回			
タイトル	確率		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	順列組み合わせ
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	推論（整数）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	推論（割合・濃度）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	総まとめ
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所屈学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	予習課題または復習課題を課すことがありますので、その課題を通して時間外学習を行ってください。	
テキスト	必要に応じて資料を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	アクティブラーニング（特に内的アクティブ）がなされているかを授業内の活動状況（ノートの記事や説明をしたり受けていたりしている様子）で評価します。	
参考文献	SPI問題集	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65042

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>																																														
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>はじめに</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>自分のMBTIを言えるようになるろう</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>韓国語で辞書を引いてみよう</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>ハングルで自分の名前を書いてみよう</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>ハングルカードで単語を覚えよう (1)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>ハングルカードで単語を覚えよう (2)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>ハングルカードであいさつを覚えよう</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>韓国語の文法の初歩にふれてみよう</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>K-POP歌詞を読んでみよう</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>韓国料理を作って教え合おう</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>K-POPの源流・トロットと国楽を聴こう</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	はじめに	フリー欄		タイトル	自分のMBTIを言えるようになるろう	フリー欄		タイトル	韓国語で辞書を引いてみよう	フリー欄		タイトル	ハングルで自分の名前を書いてみよう	フリー欄		タイトル	ハングルカードで単語を覚えよう (1)	フリー欄		タイトル	ハングルカードで単語を覚えよう (2)	フリー欄		タイトル	ハングルカードであいさつを覚えよう	フリー欄		タイトル	韓国語の文法の初歩にふれてみよう	フリー欄		タイトル	K-POP歌詞を読んでみよう	フリー欄		タイトル	韓国料理を作って教え合おう	フリー欄		タイトル	K-POPの源流・トロットと国楽を聴こう	フリー欄	
タイトル	はじめに																																														
フリー欄																																															
タイトル	自分のMBTIを言えるようになるろう																																														
フリー欄																																															
タイトル	韓国語で辞書を引いてみよう																																														
フリー欄																																															
タイトル	ハングルで自分の名前を書いてみよう																																														
フリー欄																																															
タイトル	ハングルカードで単語を覚えよう (1)																																														
フリー欄																																															
タイトル	ハングルカードで単語を覚えよう (2)																																														
フリー欄																																															
タイトル	ハングルカードであいさつを覚えよう																																														
フリー欄																																															
タイトル	韓国語の文法の初歩にふれてみよう																																														
フリー欄																																															
タイトル	K-POP歌詞を読んでみよう																																														
フリー欄																																															
タイトル	韓国料理を作って教え合おう																																														
フリー欄																																															
タイトル	K-POPの源流・トロットと国楽を聴こう																																														
フリー欄																																															

	タイトル	MBTIタイプ入門（1）
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	MBTIタイプ入門（2）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	韓国の映画・ドラマを観よう（前半）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	韓国の映画・ドラマを観よう（後半）
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	本や新聞、ニュース、音楽、映画、ネットなどを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。	
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。 （なお、この授業は初めてハングルを学ぶ人が、韓国の大衆文化を親しむための内容となっています。）</p>	
評価方法	発表・課題（70%）、授業への参加度（30%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65044

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス ゲームの構造について	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	世界のカードゲーム (1) ゲームとコミュニケーション	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	世界のカードゲーム (2) ゲームと競争	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	世界のボードゲーム	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	「トランプゲーム」の構造	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	ゲームとロールプレイ (1)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	ゲームとロールプレイ (2)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	ゲームとプレゼンテーション	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	「ゲームデザイン」とは		
フリー欄			
第10回			
タイトル	ゲームデザインと制作 (1)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	テストプレイ (1)		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	ゲームデザインと制作（２）
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	テストプレイ（２）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	ルールブックの制作
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ ゲームと情報デザイン
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の 10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容	<p>カードゲームやボードゲーム（いわゆるアナログゲーム）のデザインと制作を行います。</p>	
時間外学習	<p>ゲームのアイデアの収集やそのプレゼンテーションの準備、さらにはゲーム制作のための準備作業を時間外に行ってもらいます。</p>	
テキスト		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	<p>授業時間中に行うプレゼンテーションや発表・報告の内容で評価します。</p>	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65045

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
山田 忍			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	プレゼンテーションとは	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	プレゼンテーション内容の検討(1)－テーマ：自己紹介と身近なテーマ－	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	プレゼンテーション内容の検討(2)－テーマ：自己紹介と身近なテーマ－	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	プレゼンテーションの実施と自己評価(1)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	プレゼンテーションの実施と自己評価(2)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	プレゼンテーション内容の検討(1)－テーマ：関心のある社会的課題－	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	プレゼンテーション内容の検討(2)－テーマ：関心のある社会的課題－		
フリー欄			
第9回			
タイトル	プレゼンテーションの実施と自己評価(1)		
フリー欄			
第10回			
タイトル	プレゼンテーションの実施と自己評価(2)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	プレゼンテーション内容の検討(1)－テーマ：現時点で取り上げたいと考える卒業論文のテーマ－		
フリー欄			

	第12回
タイトル	プレゼンテーション内容の検討（2）－テーマ：現時点で取り上げたいと考える卒業論文のテーマ－
フリー欄	
	第13回
タイトル	プレゼンテーションの実施と自己評価（1）
フリー欄	
	第14回
タイトル	プレゼンテーションの実施と自己評価（2）
フリー欄	
	第15回
タイトル	まとめと復習
フリー欄	
授業概要	本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後、参考文献等を利用し復習する。経済ニュースに興味を持ち理解するように努めること。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。
評価方法	プレゼンテーション課題の提出や報告に関する質疑応答等、授業への取り組み方（60%）、グループワークへの貢献度（40%）、合計：100%で評価する。
参考文献	
備考	

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65046

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	神社のいろはを知る①	
	フリー欄	鳥居、本殿、拝殿、社殿の種類など	
	第3回		
	タイトル	神社のいろはを知る②	
	フリー欄	玉垣と千木、鯉木など	
	第4回		
	タイトル	神社のいろはを知る③	
	フリー欄	ご祭神と氏神さま、境内にある小さなお社など	
	第5回		
	タイトル	神社のいろはを知る④	
	フリー欄	社号、狛犬、石灯籠、神社の紋章など	
	第6回		
	タイトル	調査する神社の選定	
	フリー欄	米沢市内の神社の中から、2～3社を選定する	
	第7回		
	タイトル	神社の調査①	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	調査結果の整理①	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	神社の調査②		
フリー欄			
第10回			
タイトル	調査結果の整理②		
フリー欄			
第11回			
タイトル	神社の調査③		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	調査結果の整理③
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	調査結果をポスターにまとめる
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	調査結果をポスターにまとめる
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	調査結果をポスターにまとめる
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容	<p>情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし教養ゼミの運営を行う。教養ゼミでは「神社のいろは」を学習後、ゼミメンバーで選定した米沢市内の神社の調査を行う。そして調査結果をポスターにまとめる。</p>	
時間外学習	<p>ゼミで学んだ内容を深く理解するには時間外学習が不可欠である。【事前・事後学修】として報告資料の作成準備などを自主的に進めておくことはもちろんのこと、調査結果をまとめたポスターの作成は指定された期日までに取り組み提出することが挙げられる。</p>	
テキスト	適宜資料を配布	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	ゼミでの発表の様子：30%、学外での調査の取り組みの様子：30%、調査結果をまとめたポスター：40%	
参考文献	<p>神社本庁（監修）、「神社検定公式テキスト1『神社のいろは』」、扶桑社、1,781円（税込）、978-4-594-06550-8</p>	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65047

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	スポーツイベントを知る（輪読） ①スポーツイベントとは？	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	スポーツイベントを知る（輪読） ②スポーツイベントの基本構造	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	スポーツイベントを知る（輪読） ③スポーツイベントのプロジェクトマネジメント	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	スポーツイベントを知る（輪読） ④スポーツイベントのリスクマネジメント	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	スポーツイベントを体験する ①計画	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	スポーツイベントを体験する ②実行	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	スポーツイベントを体験する ③評価	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	スポーツイベントを企画・運営する ①企画立案		
フリー欄			
第10回			
タイトル	スポーツイベントを企画・運営する ②計画策定（基本計画）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	スポーツイベントを企画・運営する ③計画策定（実施計画）		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	スポーツイベントを企画・運営する ④制作施工
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	スポーツイベントを企画・運営する ⑤会場運営
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	スポーツイベントを企画・運営する ⑥結果の検証
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>授業の中で興味を持ったことに関して自分なりに調べること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。</p>	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、取り組みや課題40%	
参考文献	日本イベント産業振興協会監（2021）スポーツイベント検定公式テキスト スポーツイベントの企画・運営に携わる人のための教科書。日本イベント産業振興協会。	
備考		

講義科目名称： 教養ゼミ (65000)

授業コード： 65048

英文科目名称： A seminar for culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
中川 恵			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標を以下二点として掲げるが、それは同時にこの授業科目の受講を通じて修得する条項ともなる。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	実践研究の方法（地域貢献活動の目的・意義、実践研究報告書の書き方）	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	実践研究課題の選択、役割分担	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	【テキスト確認】調べるということ／活動の進捗報告	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	【テキスト確認】文献や資料を調べる／活動の進捗報告	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	【テキスト確認】フィールドワークをする／活動の進捗報告	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	【テキスト確認】リスクを調べる／活動の進捗報告	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	【テキスト確認】データ整理からアウトプットへ／活動の進捗報告	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	実践研究活動構想発表・準備	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	実践研究活動構想発表		
フリー欄			
第10回			
タイトル	実践研究活動構想発表・発表を踏まえての軌道修正		
フリー欄			
第11回			
タイトル	【テキスト確認】研究計画書とプレゼンテーション／活動の進捗報告		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	実践研究計画発表：よねざわチーム
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	実践研究計画発表：たかはたチーム
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	実践研究計画発表を踏まえての軌道修正
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	実践研究計画書の全体読み合わせ
	フリー欄	
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」である。</p>	
実務経験及び授業の内容	<p>テキストに沿って、社会調査の手法を理解します。課題ごとにグループを編成して現地訪問を企画・実施し、実践計画書を作成します。課題は以下の2つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> よねざわ：高齢者見守りと新たな観光コンテンツ開発 たかはた：本気の有機農業と公共交通の現在地 	
時間外学習	<p>講義時間はグループでの話し合いに優先的に時間を充てます。話し合いではテーマや進捗に即して意見交換をおこないます。資料の検索、読解、実践研究計画書の執筆・推敲などは時間外に実施してください。</p>	
テキスト	<p>宮内泰介・上田昌文、2020、『実践・自分で調べる技術』岩波新書</p>	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>	
評価方法	<p>調査活動の実際（70%）／実践研究計画書の内容（30%）</p>	
参考文献	<p>小熊英二、2022、『基礎からわかる論文の書き方』講談社現代新書</p>	
備考		

講義科目名称： キャリア実践講座（60031）

授業コード： 60031

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1	1	選択
担当教員			
後藤 和也			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>「就職活動」を題材に、学校から職業生活への移行について考えましょう。就職活動に真剣かつ前向きに取り組むことは、初期キャリア形成上重要です。当授業では「社会人として活躍する」前段階として、就職活動（初期キャリア形成）を理解し、必要な知識やスキルの習得を目指します。到達目標は「自分の経験や強みなどについて文章や言葉で説明できる」ことです。自分自身の経験を振り返り、それをエントリーシートや履歴書などの文章で表現できることや、面接試験で言語的に表現できることを目指します。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	就職活動と採用活動（活動スケジュール等の把握）	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	自身の特性や興味・関心の理解（自己分析・自己理解）	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	産業・職業の理解（企業研究・仕事理解）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	論理的な文書作成（採用時書類作成のための日本語表現や文法等）	
	フリー欄		
	第6回		
タイトル	コミュニケーション能力と人物試験（面接試験・集団討論）		
フリー欄			
第7回			
タイトル	近年の就職活動の動向・合同企業説明会や採用ナビサイトの利用（外部ゲストの特別講義）		
フリー欄			
第8回			
タイトル	授業後の行動計画の作成と授業のまとめ		
フリー欄			
授業概要	<p>就職活動に必要な知識の習得やスキルの向上を図ります。テーマに応じて外部ゲスト（人材業界）もお招きして、多角的な視点から指導します。 ※日時など受講に関する詳細は開講前に掲示します。</p>		
実務経験及び授業の内容	<p>人事・採用・人材育成等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。</p>		
時間外学習	<p>毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。</p>		
テキスト	<p>後藤和也「教養としての就職活動」三恵社1260円＋税 ISBN：978-4-86693-888-2 さわらび会購買部で購入可能です</p>		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>多くの皆さんが直面する「就職活動」をテーマに、キャリア形成について考える授業です。進路として民間企業への就職や公務員への就職を志望する人だけではなく、4年制大学への編入学希望者もぜひ受講してください（編入学後、間をあげずに就職活動が始まります）。具体的には以下のような皆さんに特に受講をお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動等全般に不安がある。 ・就職活動等について復習したい。 ・志望先に自分をどのようにPRすればよいかわからない。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・編入後を見据えて必要な情報収集を行いたい。 ・採用担当者（面接官）がどのような基準で学生を評価するのかを知りたい。 ・面接試験やグループディスカッションが苦手である。
評価方法	授業中に指示する課題（100％）で評価します。
参考文献	必要に応じてコピー等を配布します。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストを購入すること ・外部ゲストのスケジュールの都合、感染症や天候の状況等により、授業の実施方法や内容等に変更が生じる場合があります。

講義科目名称： ライフ・キャリアデザイン (60040)

授業コード： 60041 60042

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
後藤 和也			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合 有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	今後のキャリア形成に有用な諸能力への理解を深める授業です。就職活動や4年制大学への編入学試験では、「コミュニケーション能力」と称される汎用的なスキル（ジェネリック・スキル）が求められる傾向にあります。授業をとおして、ジェネリック・スキルについて学び、考えを深めましょう。当授業では「どのような経験や活動が自身のジェネリック・スキルの伸長に関係しているかを言葉や文章で説明できる」ことを到達目標とします。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	自分のジェネリック・スキルの現状を把握しよう	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	他者と交流を図る力（コミュニケーション能力）	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	他者とのコミュニケーションを取ろう（話す・聴くコミュニケーション）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	やる気や自信を保持する力（自己効力・モチベーション）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	チームを支える力（チーム・リーダーシップ）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	物事を決断する力（意思決定）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	偶然のチャンスを活かす力（キャリアにおける偶然性）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	人間関係を広げ、成長する力（メンター・発達のネットワーク）		
フリー欄			
第10回			
タイトル	自分の向き・不向きや特徴を把握する力（適性・キャリアアンカー）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	目標を立てる力（目標設定）		
フリー欄			
第12回			
タイトル	夢を実現する力（PDCAサイクル）		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	自分自身を俯瞰する力（適性検査により自己理解を深めよう）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	前期におけるジェネリック・スキルの変化を確認しよう
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	授業全体のまとめ
	フリー欄	
授業概要	社会的・職業的自立に向けて有用なジェネリックスキルを育成するため、内省する時間や他者の意見を聴く時間を頻度高く設けます。授業内の活動に取り組むことで、いわゆるコミュニケーション力を育成しましょう。入学したばかりの1年生も、進路決定を迫られている2年生にとっても有用な内容となるはずです。	
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。	
時間外学習	毎回の授業で取り上げる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。	
テキスト	テキストは指定せず、適宜コピーを配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は、直接的に就職活動や編入学試験を指導するものではありません。ただし、授業中のグループワークなどを通して話す力や聴く力が鍛えられるので、結果的に就職活動や編入学試験に役立つ情報やスキルは得られると考えます。積極的に参加いただくことを希望します。	
評価方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、授業後アンケートの振り返り内容の質等）50%、最終レポート等の記載内容等50%により評価する。	
参考文献		
備考	各種感染症等の状況により、授業の実施方法に変更が生じる可能性があります。また、ゲストスピーカーとの日程調整等により、実施内容や実施回を変更する場合があります。	

講義科目名称： 現代社会とキャリア形成 (60050)

授業コード： 60051 60052

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
後藤 和也			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	皆さんのキャリアと社会との関係について考える授業です。具体的には、キャリアに関連する理論、自身の経験を振り返る（リフレクション）ための技法並びにワーク・ルールなどについて扱います。社会で活躍中のゲストスピーカーのお話を聞く機会も設ける予定です。到達目標は「これまでの経験を振り返りながら、自身のキャリア形成について文章で表現できる」ことです。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	「偶然のチャンス」を創り出す方法とは	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	「一皮むけた経験」を振り返り、成長の糧にする	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	キャリア・ドリフト（流れに身を任せながら将来のキャリアを考える）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	「経験」と「リフレクション（振り返り）」	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	「やりたいこと探し」と「やってみること（体験）」を考える	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	事例で学ぶジェネリック・スキル①（旅行・観光業界で求められる力）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	事例で学ぶジェネリック・スキル②（中小企業で求められる力）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	活躍する社会人の話を聞こう（社会人講話）		
フリー欄			
第10回			
タイトル	実社会で求められる力を考える（社会人講話のふりかえり）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	ワーク・ルールのあらし（労働関連法の概要）		
フリー欄			
第12回			
タイトル	働きすぎと心身の健康（労働基準法、労働安全衛生法等）		
フリー欄			

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	男女とも働きやすい職場環境とは（男女雇用機会均等法、育児介護休業法等）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	労働組合、ユニオンとわたしたちの働く権利（労働組合法）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	授業全体のまとめ
	フリー欄	
授業概要	「実社会で求められる知識や能力」について、自身の経験を振り返り、考えを深める機会を多く設けます。結果として、就職活動で求められる「自己分析（自己理解）」の練習になるでしょう。「ブラック企業から自分を守るための方法」「女性が活躍できる企業とは」「女性労働の歴史」など、皆さんにとって関心の高いであろうトピックも扱う予定です。適宜動画教材を用いるなど、理解が深まるような工夫をしたいと思います。	
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成等の実務経験を持つ教員が、その知見を活かし学生におけるキャリアを支援するための授業を行う。	
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方や考え方を整理すること。	
テキスト	適宜プリント等を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は直接的に就職活動や編入学試験を指導するものではありません。皆さんが社会人となってからキャリアを形成していくために必要な知識や能力を考えます。ただし、必要に応じて担当教員の人事・採用の実務経験から得た知見を紹介したり、特定分野の実務家をゲストスピーカーとしてお招きしたりしますので、結果的に就職活動等に役立つ情報やスキルは得られるでしょう。	
評価方法	毎授業後のリアクションペーパーにおける振り返りの内容50%、最終レポートの内容50%により評価する	
参考文献		
備考	感染症や天候等の状況により、授業の実施方法や内容等に変更が生じる可能性があります。	

講義科目名称： 心理学 (60110)

授業コード： 60111 60112

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石崎 毅			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
	聴講生開講科目※	※一般の男女が聴講する場合 有	授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 心理学への関心を高め、理解を深める。</p> <p>到達目標 発達心理学及び臨床心理学、パーソナリティ心理学、認知心理学等の、基礎的かつ本質的な内容を学ぶことにより、自尊感情を高めつつ、自己や他者をより深く理解できる力を育む。</p>																																														
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>心理学とは何か（心理学の様々な領域と心理学の役割）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>発達心理学（青年期までに獲得したいこと）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>臨床心理学・発達心理学（愛着形成の重要性）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>発達心理学・教育心理学（学力や人生に影響を与える決定的な要素）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>パーソナリティ心理学（パーソナリティ心理学の概要と自分らしさの指標）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>パーソナリティ心理学（自己分析）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>パーソナリティ心理学（自尊感情とパーソナルプロジェクト）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>発達心理学・臨床心理学・パーソナリティ心理学（知能のとらえ方と知能検査）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>臨床心理学（様々な発達障害とその傾向）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>臨床心理学（大人の発達障害とその対処）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>認知心理学・学習心理学（2つの学習基礎理論）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	心理学とは何か（心理学の様々な領域と心理学の役割）	フリー欄		タイトル	発達心理学（青年期までに獲得したいこと）	フリー欄		タイトル	臨床心理学・発達心理学（愛着形成の重要性）	フリー欄		タイトル	発達心理学・教育心理学（学力や人生に影響を与える決定的な要素）	フリー欄		タイトル	パーソナリティ心理学（パーソナリティ心理学の概要と自分らしさの指標）	フリー欄		タイトル	パーソナリティ心理学（自己分析）	フリー欄		タイトル	パーソナリティ心理学（自尊感情とパーソナルプロジェクト）	フリー欄		タイトル	発達心理学・臨床心理学・パーソナリティ心理学（知能のとらえ方と知能検査）	フリー欄		タイトル	臨床心理学（様々な発達障害とその傾向）	フリー欄		タイトル	臨床心理学（大人の発達障害とその対処）	フリー欄		タイトル	認知心理学・学習心理学（2つの学習基礎理論）	フリー欄	
タイトル	心理学とは何か（心理学の様々な領域と心理学の役割）																																														
フリー欄																																															
タイトル	発達心理学（青年期までに獲得したいこと）																																														
フリー欄																																															
タイトル	臨床心理学・発達心理学（愛着形成の重要性）																																														
フリー欄																																															
タイトル	発達心理学・教育心理学（学力や人生に影響を与える決定的な要素）																																														
フリー欄																																															
タイトル	パーソナリティ心理学（パーソナリティ心理学の概要と自分らしさの指標）																																														
フリー欄																																															
タイトル	パーソナリティ心理学（自己分析）																																														
フリー欄																																															
タイトル	パーソナリティ心理学（自尊感情とパーソナルプロジェクト）																																														
フリー欄																																															
タイトル	発達心理学・臨床心理学・パーソナリティ心理学（知能のとらえ方と知能検査）																																														
フリー欄																																															
タイトル	臨床心理学（様々な発達障害とその傾向）																																														
フリー欄																																															
タイトル	臨床心理学（大人の発達障害とその対処）																																														
フリー欄																																															
タイトル	認知心理学・学習心理学（2つの学習基礎理論）																																														
フリー欄																																															

	タイトル	認知心理学（記憶の方法）
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	認知心理学（効果的な学習法）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	パーソナリティー心理学（自尊感情とパーソナルプロジェクト）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	総まとめ
	フリー欄	
授業概要	本講義では発達心理学、臨床心理学、パーソナリティー心理学、認知心理学の4つを中心に授業展開し、各授業で代表的な知見を紹介し、その知見と日常生活を照らし合わせ、記述することによって自分自身を振り返る時間をつくっていきます。さらに、みなさんが私見を述べたり、議論したりし、他者の感じ方や考え方に触れることを通して、知見に対する理解を深めていきます。	
実務経験及び授業の内容	学校心理士SVとしての実務経験を生かして授業を行います。	
時間外学習	授業内容について、キーワードをふまえて、感じたことや思ったこと、考えたことを記述して提出してください。	
テキスト	必要に応じて資料を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	心理学の専門的な知見を身近な生活場面と関連付けて講義し、興味と関心を持って受講できるように工夫したいと思います。この講義を通して私もみなさんも同じように自分自身を見つめる時間にできればと考えています。	
評価方法	授業評価70%（主に授業ごとの提出課題を評価します。また、出席状況などオリエンテーションで説明する受講のルールが守れているかも評価します。） 期末課題30%（800～1000文字程度のレポートを評価します。その際には、「独自性があるか」「授業で紹介したキーワードが軸となっているか」「自分で調べた知見が含まれているか」を観点とします。）	
参考文献	「DSM-4」「DSM-5」（アメリカ精神医学会著 日本精神神経学会訳）	
備考		

講義科目名称： 日本国憲法（60130）

授業コード： 60130

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
堀田 学			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 日本国憲法の構造を理解する。 2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることがわかる。 3. 人権概念を理解する。</p>																																														
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>憲法の基礎</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>参政権</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>国会</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>内閣</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>裁判所</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>象徴天皇制</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>平和主義</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>人権総論 1（人権の理念と歴史）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>人権総論 2（人権の享有主体性）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>信教の自由と政教分離</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>表現の自由</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table>			タイトル	憲法の基礎	フリー欄		タイトル	参政権	フリー欄		タイトル	国会	フリー欄		タイトル	内閣	フリー欄		タイトル	裁判所	フリー欄		タイトル	象徴天皇制	フリー欄		タイトル	平和主義	フリー欄		タイトル	人権総論 1（人権の理念と歴史）	フリー欄		タイトル	人権総論 2（人権の享有主体性）	フリー欄		タイトル	信教の自由と政教分離	フリー欄		タイトル	表現の自由	フリー欄	
タイトル	憲法の基礎																																														
フリー欄																																															
タイトル	参政権																																														
フリー欄																																															
タイトル	国会																																														
フリー欄																																															
タイトル	内閣																																														
フリー欄																																															
タイトル	裁判所																																														
フリー欄																																															
タイトル	象徴天皇制																																														
フリー欄																																															
タイトル	平和主義																																														
フリー欄																																															
タイトル	人権総論 1（人権の理念と歴史）																																														
フリー欄																																															
タイトル	人権総論 2（人権の享有主体性）																																														
フリー欄																																															
タイトル	信教の自由と政教分離																																														
フリー欄																																															
タイトル	表現の自由																																														
フリー欄																																															

	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	経済的自由
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	人身の自由
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	社会権
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	幸福追求権
	フリー欄	
授業概要	日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が活かされています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	配布したレジュメ等を授業が終わってから見直し、知識の定着を図ること。また、新聞やニュースを毎日チェックし、社会の動きに敏感になること。	
テキスト	駒村圭吾編『プレステップ憲法(第4版)』弘文堂、2024年 2200円 ISBN 9784335001581	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	自分の手を動かし書くことで理解も深まりますので、板書も多くしたいと思います。また、日々刻々と変化する社会の動きを把握するためにも、新聞やニュースに積極的に触れるようにしてください。	
評価方法	期末試験 (90%)、DVD視聴の感想・意見 (10%)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 国際関係論 (60140)

授業コード： 60140

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
堀田 学			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論の理論を理解できる。 2. グローバルな課題を理解することができる。 3. 国際問題を理解する知識を身につける。 																																														
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>国際関係論とは何か</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>20世紀の国際関係1 (2つの世界大戦と国際関係)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>20世紀の国際関係2 (冷戦時代の国際関係)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>20世紀の国際関係3 (ポスト冷戦時代の国際関係)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>現代の国際関係 (9・11以降の国際関係)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>国際関係理論1 (リアリズム)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>国際関係理論2 (リベラリズム)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>国際機関</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>欧州統合</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>民族紛争・宗教対立 1 (中東)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>民族紛争・宗教対立 2 (中東)</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table>			タイトル	国際関係論とは何か	フリー欄		タイトル	20世紀の国際関係1 (2つの世界大戦と国際関係)	フリー欄		タイトル	20世紀の国際関係2 (冷戦時代の国際関係)	フリー欄		タイトル	20世紀の国際関係3 (ポスト冷戦時代の国際関係)	フリー欄		タイトル	現代の国際関係 (9・11以降の国際関係)	フリー欄		タイトル	国際関係理論1 (リアリズム)	フリー欄		タイトル	国際関係理論2 (リベラリズム)	フリー欄		タイトル	国際機関	フリー欄		タイトル	欧州統合	フリー欄		タイトル	民族紛争・宗教対立 1 (中東)	フリー欄		タイトル	民族紛争・宗教対立 2 (中東)	フリー欄	
タイトル	国際関係論とは何か																																														
フリー欄																																															
タイトル	20世紀の国際関係1 (2つの世界大戦と国際関係)																																														
フリー欄																																															
タイトル	20世紀の国際関係2 (冷戦時代の国際関係)																																														
フリー欄																																															
タイトル	20世紀の国際関係3 (ポスト冷戦時代の国際関係)																																														
フリー欄																																															
タイトル	現代の国際関係 (9・11以降の国際関係)																																														
フリー欄																																															
タイトル	国際関係理論1 (リアリズム)																																														
フリー欄																																															
タイトル	国際関係理論2 (リベラリズム)																																														
フリー欄																																															
タイトル	国際機関																																														
フリー欄																																															
タイトル	欧州統合																																														
フリー欄																																															
タイトル	民族紛争・宗教対立 1 (中東)																																														
フリー欄																																															
タイトル	民族紛争・宗教対立 2 (中東)																																														
フリー欄																																															

	第12回
	タイトル 民族紛争・宗教対立3 (ヨーロッパ)
	フリー欄
	第13回
	タイトル 安全保障1 (軍事)
	フリー欄
	第14回
	タイトル 安全保障2 (食糧・環境)
	フリー欄
	第15回
	タイトル これからの国際関係
	フリー欄
授業概要	現代の国際社会は、グローバル化が進行する一方で、反グローバル化の動きやポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、国際問題に関する知識を深め、関心を持ってください。
テキスト	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	ニュースや新聞などの国際面を読んで、刻々と変わる国際情勢の把握に努めてください。
評価方法	期末試験 (70%)、DVD視聴の感想・意見 (30%)
参考文献	佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論 (第3版)』弘文堂、2018年 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ (第3版)』有斐閣、2023年 小原雅博『大学4年間の国際政治学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2021年
備考	

講義科目名称： 現代社会論 (60150)

授業コード： 60150

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
門田 一徳			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の取材を通して現代社会を理解することができる ・新聞記事の要点を迅速かつ的確に把握できる ・取材（調査）の準備、質疑の基本を实践できる ・伝わりやすい文章を書くことができる 																																																																				
授業計画	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">第1回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>講義の進め方、新聞記事の構成</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第2回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>記事の読み方、見出しの付け方</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第3回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>グループごと取材先の調整、取材・原稿執筆のポイント</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第4回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>C S A（地域支援型農業）の記事からの社会課題分析</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第5回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>コラムの要約</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第6回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>取材時のポイント復習</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第7回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>質問の準備</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第8回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>移動・取材</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第9回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>移動・取材</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第10回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>原稿の構成検討・執筆</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第11回</td> </tr> <tr> <td>タイトル</td> <td>グループごと原稿検討</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">第12回</td> </tr> </table>	第1回		タイトル	講義の進め方、新聞記事の構成	フリー欄		第2回		タイトル	記事の読み方、見出しの付け方	フリー欄		第3回		タイトル	グループごと取材先の調整、取材・原稿執筆のポイント	フリー欄		第4回		タイトル	C S A（地域支援型農業）の記事からの社会課題分析	フリー欄		第5回		タイトル	コラムの要約	フリー欄		第6回		タイトル	取材時のポイント復習	フリー欄		第7回		タイトル	質問の準備	フリー欄		第8回		タイトル	移動・取材	フリー欄		第9回		タイトル	移動・取材	フリー欄		第10回		タイトル	原稿の構成検討・執筆	フリー欄		第11回		タイトル	グループごと原稿検討	フリー欄		第12回	
第1回																																																																					
タイトル	講義の進め方、新聞記事の構成																																																																				
フリー欄																																																																					
第2回																																																																					
タイトル	記事の読み方、見出しの付け方																																																																				
フリー欄																																																																					
第3回																																																																					
タイトル	グループごと取材先の調整、取材・原稿執筆のポイント																																																																				
フリー欄																																																																					
第4回																																																																					
タイトル	C S A（地域支援型農業）の記事からの社会課題分析																																																																				
フリー欄																																																																					
第5回																																																																					
タイトル	コラムの要約																																																																				
フリー欄																																																																					
第6回																																																																					
タイトル	取材時のポイント復習																																																																				
フリー欄																																																																					
第7回																																																																					
タイトル	質問の準備																																																																				
フリー欄																																																																					
第8回																																																																					
タイトル	移動・取材																																																																				
フリー欄																																																																					
第9回																																																																					
タイトル	移動・取材																																																																				
フリー欄																																																																					
第10回																																																																					
タイトル	原稿の構成検討・執筆																																																																				
フリー欄																																																																					
第11回																																																																					
タイトル	グループごと原稿検討																																																																				
フリー欄																																																																					
第12回																																																																					

	タイトル	グループごと原稿まとめ
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	グループ原稿発表
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	グループ発表への質疑、講評
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	グループごと原稿の最終校正、提出
	フリー欄	
授業概要	河北新報の新聞紙面を題材に、社会で求められる「読む」「聞く」「書く」ための基本を伝える。質問設定のポイントや分かりやすく伝えるための文章の書き方を実践を交えて学習する	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	日ごろから新聞や雑誌に触れ、記事のポイントを把握する技術を養うこと。各自、地域などで取材したい対象（人・場所）を探し、取材先を決めるグループ打合せで提案できるよう事前に準備しておくこと	
テキスト	テキストなし。必要に応じて資料を配付する	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	新聞は膨大な量の情報を文字と写真でコンパクトに分かりやすく伝えるメディア。新聞記事を通じて読み方、聞き方（取材の仕方）、書き方を学び、実際に取材して記事を作成してもらおう。講義には河北新報社の大学生インターンシップ実施内容を含む。今後、レポートやビジネス文書を書く際の参考にしてほしい。インスタグラムなどでメッセージを効果的に伝えるヒントにもなる	
評価方法	授業への積極度・取り組み姿勢20%、グループ発表原稿80%	
参考文献		
備考		

講義科目名称： ジェンダー論 (60160)

授業コード： 60160

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
滝口 克典			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本講義では、ジェンダーの視点から、日常生活におけるさまざまなできごとや社会問題を考えていきます。到達目標は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーやフェミニズムの基本的な視点や思考を理解できる ・日常における身近なできごとをジェンダーと結びつけて考えることができる ・さまざまな社会問題をジェンダーの視点から考え、理解することができる 		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス 講師の実践紹介 (特定非営利活動法人Sisterhoodほか)	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	ジェンダーとは？	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	ジェンダー秩序とは？	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	フェミニズムとは？	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	家族はいま、どうなっているか？ (家族とジェンダー)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	学校の「隠れたカリキュラム」とは？ (教育とジェンダー)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	なぜこんなに低賃金なのか？ (労働とジェンダー)	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	なぜ「地方消滅」はとまらないか？ (地域とジェンダー)		
フリー欄			
第9回			
タイトル	ワークショップ——小説で読むジェンダー論／フェミニズム		
フリー欄			
第10回			
タイトル	なぜ女性のほうが貧困に陥りがちなのか？ (貧困とジェンダー)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	なぜDV (デートDV) はなくなるのか？ (暴力とジェンダー)		
フリー欄			

	第12回
	タイトル なぜ「ひきこもり」は男性に多いのか？（就労とジェンダー）
	フリー欄
	第13回
	タイトル なぜ中高年男性の自殺が多いのか？（自殺とジェンダー）
	フリー欄
	第14回
	タイトル なぜ女性支援が必要か？（支援とジェンダー）
	フリー欄
	第15回
	タイトル まとめ・ふりかえり
	フリー欄
授業概要	まずは社会学的な観点から、ジェンダーの基本概念、その背景をなすフェミニズムの歴史などを学びます。その後、ジェンダー秩序というものが家庭や学校、職場、地域においてどのように構築されているのか、またそれがDV（デートV）やひきこもり、自殺などの社会問題にどうつながっているのか、そしてそれらを解消していくために何が必要かといった問題を順次考えていきます。ジェンダーやフェミニズムをテーマとする現代小説を読むワークショップも実施する予定です。リアクションペーパー等で受講生の声を拾い、それらを随時クラスで共有しながら授業を進めていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各回のテーマに関連する小説や映画などを随時紹介していきます。ぜひ読んで／観てみてください。
テキスト	滝口克典『〈生きづらさ〉の理由（やまがた発）社会問題と市民活動の社会学』（よりみち文庫、2023年、定価：税抜2,000円）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ジェンダーの視点とは、それをかけるとふだんは見えないさまざまなことが見えるメガネみたいなものです。学んでいくにつれ、これまでとは違う社会の姿を捉えることができるようになっていくのがジェンダー論のおもしろいところです。授業ではいろんな事例や作品を紹介していきますので、ぜひいっしょに楽しみながら学んでいきましょう。
評価方法	授業内課題70%、レポート課題等30%
参考文献	授業内で随時紹介します。
備考	

講義科目名称： 健康と栄養（60190）

授業コード： 60190

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択
担当教員			
金谷 由希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. 「健康」の概念と、健康を維持増進するための「栄養」の重要性を理解する。 2. 現在及び将来の実生活において、健康の維持増進に有用な食生活の実践方法を習得する。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション・健康と栄養について学ぶ意義	
	フリー欄	授業の進め方や評価方法について説明する。健康とは何か、健康づくりの三要素の一つである栄養とは何か、それらを学ぶことでどのように実生活に活かすことができるかを学ぶ。	
	第2回		
	タイトル	生活習慣病と栄養（生活習慣病の概念、食塩と高血圧）	
	フリー欄	生活習慣病とは何か。私たちの健康と食塩の関係について学ぶ。	
	第3回		
	タイトル	生活習慣病と栄養（肥満問題）	
	フリー欄	肥満大国であるアメリカを例に、肥満について学ぶ。	
	第4回		
	タイトル	生活習慣病と栄養(酒)	
	フリー欄	どんなお酒をどのくらい、どのように飲むべきか学ぶ。	
	第5回		
	タイトル	地中海食	
	フリー欄	よく耳にする地中海食とは何か、なぜ健康食と言われるのかを学ぶ。	
	第6回		
	タイトル	健康的な食事	
	フリー欄	野菜、卵、食塩、全粒穀物等を例に、健康的な食事とは何かを考える。	
	第7回		
	タイトル	ビタミン	
フリー欄	ビタミンの歴史と欠乏症について学ぶ。		
第8回			
タイトル	栄養健康情報の受けとめ方		
フリー欄	飛び交う栄養健康情報に惑わされないために、情報の受けとめ方について考える。		
授業概要	栄養や食事に関するこれまでの先行研究を紹介する。そのうえで、健康と栄養の基礎やその関係を学ぶ。具体的には、栄養の過不足により生じる健康障害、特に生活習慣病等の疾病と食、食の歴史と食文化、健康の維持増進のために有用な食生活の実践等について学ぶ。		
実務経験及び授業の内容	障がい者支援施設における管理栄養士としての実務経験があり、この経験を生かして栄養に関する講義を行う。		
時間外学習	日頃から、健康や食・栄養に関する情報を、図書や新聞で収集しながら、授業で学んだことを実生活に活かす方策を考え、整理しておくこと。		
テキスト	テキスト：使用しない。 必要な資料は、授業中に配付する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	私たちの体は食べた物でできている。食べることの大切さを知り、それを自身の生活に取り入れられるような授業を展開していきたい。		
評価方法	レポート100%		
参考文献			

備考	授業内では、携帯電話やスマートフォン、タブレット端末、ノートパソコン等の電子機器を授業以外の目的で使用しないでください。教員の指示や許可が無い場合はこれらの機器を使用することは禁止です。授業の録画や録音、講義資料の撮影を行うことを禁止します。

講義科目名称： 芸術学 (60200)

授業コード： 60200

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石澤 靖典			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	美術作品の見方や分析方法を学びます。美術が社会や歴史、文学をはじめとする他の芸術形式とどのような関係にあるかを理解し、作品に対して学問的にアプローチするための手法を身につけます。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	美術の歴史 (古代からルネサンスまで)	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	美術の歴史 (バロックからロココまで)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	美術の歴史 (19世紀の美術)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	美術の歴史 (20世紀の美術)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	芸術の方法論 (美術と文学)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	芸術の方法論 (花と庭園の図像学 1)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	芸術の方法論 (花と庭園の図像学 2)	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	芸術の方法論 (図像解釈学)	
フリー欄			
第10回			
タイトル	芸術の方法論 (芸術と心理学)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	芸術の方法論 (芸術と社会)		
フリー欄			
第12回			
タイトル	美術作品の分析 (バロック美術)		
フリー欄			
第13回			

	タイトル	美術作品の分析（近代美術）
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	美術作品の分析（現代美術）
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	前半ではおもに西洋の美術作品を例に挙げながら、様式論や図像学、社会学的アプローチなどの方法論を解説し、後半では作品分析を実践するための具体例を提示します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	美術展覧会や関連図書を通じ、日頃から芸術に対する興味・関心を持つこと。	
テキスト	とくに教科書は指定しません。参考書については随時授業中に紹介します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の内容について関心を引くテーマがあれば、自分なりに参考書を読むなどして、さらに知見を深めるとよいでしょう。	
評価方法	筆記試験（60％）と授業への参加度（40％）により評価します。	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 情報処理演習 I (英) (60210)

授業コード： 60211

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
山田 忍			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>「情報処理演習 I」では、学生生活や将来の社会人として実務に携わる際に必須とされるコンピュータの活用に必要な基本的操作の習熟を目的とする。具体的な到達目標は、次の通りである。①Windows PCの基本操作ができる。②Microsoft Wordを使用し、文書作成ができる。③Microsoft PowerPointを使用し、プレゼンテーションができる。④Microsoft Excelを使用し、基礎的なデータ処理ができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス、Windows PC の基本操作	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	キーボードの基本、アプリケーションソフトウェアの起動	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	文字入力、ファイルの保存・編集、電子メールの書き方と注意点	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	ファイル・フォルダ管理	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	(Word) 文字入力基本操作、書式設定 基礎編(ページ・フォント設定等)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	(Word) 表、オートシェイプ、表・図・写真の追加	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	(Word) 書式設定 応用編(段落設定・ヘッダー・フッター・箇条書き等)	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	まとめと応用 (到達度確認課題①)		
フリー欄			
第9回			
タイトル	(PowerPoint) プレゼンテーションとは、PowerPoint の基本操作		
フリー欄			
第10回			
タイトル	(PowerPoint) スライドの作成、スライドの組み立てと提示		
フリー欄			
第11回			
タイトル	(Excel) Excel とは、基本的な入力操作		
フリー欄			

	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	(Excel) 数式と基本的な関数の利用
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	(Excel) 表の作成、グラフの利用
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Office その他の機能の紹介
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめと応用 (到達度確認課題②)
	フリー欄	
授業概要	本授業では講義・解説に加え、実技・演習を行いながら、Windows PCの操作、インターネットやメール利用時のマナーとルール、Microsoft Officeによる文書作成とレポート作成の知識と技術、スライド作成、データ処理の基礎を学ぶ。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	知識と技術を定着するための復習に必要な時間を十分確保すること。	
テキスト	資料を適宜配布する。	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	学期の前半では、まずコンピュータに触れ、操作に慣れてもらうための時間を多く用意しています。コンピュータの操作に苦手意識がある人も心配には及びません。それぞれのアプリケーションの基本的な操作を少しずつ積み重ねていくことで、Microsoft Officeの基礎的な知識と技術を身に着けることができます。	
評価方法	「到達度確認課題①」 (30%) および「到達度確認課題②」 (30%)、授業内課題 (40%)、合計：100%で評価する。	
参考文献		
備考	USBメモリを持参すること	

講義科目名称： 情報処理演習 I (国) (60210)

授業コード： 60212

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
小池 隆太			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトの基本的操作を習得します。授業の後半でプレゼンテーション用にパワーポイントの基本的操作を習得します。具体的には日商PC検定試験の文書作成3級、ならびにプレゼンテーション3級に合格できるレベルを目標とします。単なる文書作成だけにとどまらず、業務の中で自分なりの工夫が求められるような局面に対応できるスキルの獲得を到達目標とします。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	パソコンとメールソフトの基本操作	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	タイピング、日本語入力、ファイル操作	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	ワープロソフトの基本操作	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	レイアウトと書式設定(1) (文字の修飾など)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	レイアウトと書式設定(2) (罫線など)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	表の作成(1) (基本)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	表の作成(2) (応用)	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	レイアウトと書式設定(3) (拡張書式設定)		
フリー欄			
第10回			
タイトル	ビジネス文書(1) (社内文書)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	ビジネス文書(2) (社外文書)		
フリー欄			
第12回			
タイトル	プレゼンテーションスライドの制作(1) (テーマ設定とアウトライン)		
フリー欄			

	第13回
	タイトル プレゼンテーションスライドの制作(2) (基本操作)
	フリー欄
	第14回
	タイトル プレゼンテーションスライドの制作(3) (アニメーション効果)
	フリー欄
	第15回
	タイトル 総合課題
	フリー欄
授業概要	授業では毎回学習テーマを設定し、まずチュートリアルによるソフトの機能説明とともに操作を練習した後、対応する課題演習を行い、基本的操作を習得できるようにします。
実務経験及び授業の内容	第一種情報処理技術者（旧通商産業省）の国家資格を有し、プログラマ/システムエンジニアとしての実務経験があります。その経験を反映したシステムの解説を行います。
時間外学習	授業で解説した内容に対応する課題を次回までに提出してもらいます。空き時間などを活用して作業することを求めます。
テキスト	資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「コンピュータは苦手」という方でも定式化されたやり方で文書作成を行うことで、ビジネス文書やプレゼンスライドを作ることは困難ではありません。気軽に取り組めるようになりましょう。
評価方法	授業内課題（80%）、期末課題（20%）
参考文献	
備考	

講義科目名称： 情報処理演習 I (日・社) (60210)

授業コード： 60213

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
石崎 毅			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	ワープロソフトのワードの基本操作を習得するとともに、正しくて伝わりやすい文書作成上の留意点を学ぶことを通して、社会的に認められる文書作成ができる力を育む。具体的な水準は、日商PC検定3級レベルとする。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス (情報リテラシーと評価の方法) メール文書の作成と送信	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	社内文書の作成 (社内連絡書)	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	社内文書の作成 (社内提案書)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	社外文書の作成 (社外連絡書)	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	仕事を想定した文書の作成 (社内連絡書・社外連絡書・社外メール文書)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	ビジネスでよく使う日本語文法の基本 図解の利用方法 ここまでの知識の確認	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	文書管理の基本知識 図解の利用 ビジネス文書作成の留意点	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	ビジネス文書作成の留意点確認 表のあるビジネス文書の作成 (基本)	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	図形のあるビジネス文書の作成 (基本) 表のあるビジネス文書の作成 (応用)		
フリー欄			
第10回			
タイトル	図形のあるビジネス文書の作成 (応用) 図表のあるビジネス文書の留意点		
フリー欄			
第11回			
タイトル	演習		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの留意点
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの作成
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	パワーポイントを使ったプレゼンテーションスライドの作成と吟味
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	総合課題
	フリー欄	
授業概要	内容説明と演習を効果的に配分して課題解決力を高めていきます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業で学習した操作方法を繰り返し復習してください。	
テキスト	必要に応じて資料を配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	正しい文章表現や適切な図表を使ってビジネス文書を作成できることは、丁寧な文字で文章を書くことと同じように今後の社会生活で役立ちます。情報リテラシーを少しずつ高めていきましょう。	
評価方法	授業70%（授業ごとの提出課題と出席状況の評価します。） 期末課題30%（授業で学習した内容についての総合問題で評価します。）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 情報処理演習 I (日) (60210)

授業コード： 60214

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
中川 恵			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>文書作成の基礎的な手法を習得し、学生生活の場面に応じて適切な文書を作成する。 Office365の諸機能を使って「会議」（画面共有や動画通信）参加やデータの共有を実践する。</p> <p>*日商PC検定(文書作成・データ活用)3級程度の難易度を想定しています。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	目標と方針の共有／パソコンの基本動作確認	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	目標と方針の共有(再)／Office365の基本機能確認	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	基本的なビジネス文書の作成／課題1解説	
	フリー欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の種類と有用性 ・ビジネス文書のライティング ・電子メールのライティング 	
	第4回		
	タイトル	表のあるビジネス文書の作成／課題2解説	
	フリー欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス図解の基本 ・ビジネス文書の管理 	
	第5回		
	タイトル	図形のあるビジネス文書の作成／課題3解説	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	業務に応じた計算・集計処理／課題4解説	
	フリー欄	<ul style="list-style-type: none"> ・Office365の基本機能 ・取引の仕組みと業務の流れ 	
	第7回		
	タイトル	業務データの管理／課題5解説	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	表の作成／課題6解説		
フリー欄			
第9回			
タイトル	データの集計／課題7解説		
フリー欄			
第10回			
タイトル	グラフの作成／課題8解説		
フリー欄			
第11回			
タイトル	ウェブ会議：作法と諸機能		
フリー欄			

	第12回				
	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>ウェブ会議：参加と画面共有</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table>	タイトル	ウェブ会議：参加と画面共有	フリー欄	
タイトル	ウェブ会議：参加と画面共有				
フリー欄					
	第13回				
	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>わかりやすいビジネス文書の作成／課題9解説</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の種類と有用性 ・ビジネス文書のライティング ・ビジネス文書の管理 </td> </tr> </table>	タイトル	わかりやすいビジネス文書の作成／課題9解説	フリー欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の種類と有用性 ・ビジネス文書のライティング ・ビジネス文書の管理
タイトル	わかりやすいビジネス文書の作成／課題9解説				
フリー欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書の種類と有用性 ・ビジネス文書のライティング ・ビジネス文書の管理 				
	第14回				
	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>図形を組み合わせた図解の作成／課題10解説</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアル表現 ・図解技術 </td> </tr> </table>	タイトル	図形を組み合わせた図解の作成／課題10解説	フリー欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアル表現 ・図解技術
タイトル	図形を組み合わせた図解の作成／課題10解説				
フリー欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアル表現 ・図解技術 				
	第15回				
	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>別アプリケーションのデータ利用／課題11解説</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table>	タイトル	別アプリケーションのデータ利用／課題11解説	フリー欄	
タイトル	別アプリケーションのデータ利用／課題11解説				
フリー欄					
授業概要	・本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題や会議機能を活用し、当該到達目標に即した技術を習得します				
実務経験及び授業の内容					
時間外学習	・授業時間中におこなうのは主に課題に関するの解説とオンライン面談による個別の進捗確認です。課題については、授業時間では足りなければ空き時間などに作業をしてもらうことになります。				
テキスト	なし				
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	・日商PC検定3級は、「指示に従い、ビジネス文書の雛形や既存文書を用いて、正確かつ迅速にビジネス文書を作成することができる」状態を目指します。該当の難易度がどの程度であるかを確認し、ご自身の目標に照らして簡単すぎる場合は他の科目の受講を検討してください。				
評価方法	課題（100%）				
参考文献					
備考					

講義科目名称： 情報処理演習 I (国) (60210)

授業コード： 60215

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
董 彦文			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	ワープロソフトのワードとプレゼンテーションソフトのパワーポイントの基本操作を習得するとともに、ビジネス文書を作成するための基本要領と留意点を学びます。日商PC検定試験3級に合格するレベルを到達目標とします。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄	パソコンとメールソフトの基本操作	
	第2回		
	タイトル	日本語入力, ファイル操作	
	フリー欄	ワープロソフトの基本操作と文字列の編集	
	第3回		
	タイトル	文書の書式・体裁を整える操作	
	フリー欄	文字修飾・文字強調	
	第4回		
	タイトル	ビジネス文書(社内・社外向け)の基本構成	
	フリー欄	箇条書き, 記述記号の使い方	
	第5回		
	タイトル	表の作成とレイアウト設定	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	表の書式設定とレイアウト設定、複合表の使い方	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	ビジネス文書(社内・社外文書)の種類と雛形	
	フリー欄	テンプレートの使い方、スタイルの定義	
	第8回		
	タイトル	図解の基本	
	フリー欄	図の作成(1):基本図形の利用方法	
第9回			
タイトル	図の作成(2):図形の書式設定		
フリー欄			
第10回			
タイトル	図の作成(3):図形のレイアウト設定		
フリー欄			
第11回			
タイトル	図表のあるビジネス文書の留意点と練習		
フリー欄			
第12回			
タイトル	プレゼンテーションスライドの制作(1):テーマ設定とテキストの追加・編集		
フリー欄			

	第13回
	タイトル プレゼンテーションスライドの制作(2)：図表の追加と書式設定
	フリー欄
	第14回
	タイトル プレゼンテーションスライドの制作(3)：アニメーション効果
	フリー欄 発表ノートと配布資料の作成
	第15回
	タイトル 総合課題
	フリー欄
授業概要	毎回、学習テーマを設定し、操作方法を説明しながら一緒に操作練習をしたあと、学習テーマに沿った課題をこなすことで基本的操作を習得できるようにします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中にわからなかったパソコン用語の意味を調べたり、ソフトウェアを繰り返して使う必要があります。空き時間などを活用してタイピング練習をしてください。
テキスト	資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	専門用語をたくさん覚えなければいけないため結構戸惑うし、教員の説明を受けながらパソコンを操作しなければならぬためついていけないと思うかもしれませんが、いつでも気軽に手を挙げて質問してください。
評価方法	授業内課題（70%）と期末総合課題（30%）
参考文献	授業中適宜提示します。
備考	

講義科目名称： 情報処理演習Ⅱ(国・日) (60220)

授業コード： 60221

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
山田 忍			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>「情報処理演習Ⅱ」では、大学や企業において幅広く利用されている表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を教材として学習し、基礎的な技術を習得することを目的とする。具体的な到達目標は、次の通りである。①データに対し、適切な関数を判断し利用することができる。②適切なグラフを選択し、作成することができる。③データベース機能を利用し、簡単な分析を実施することができる。</p>																																																																				
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ガイダンス、Excelの概要、入力基本操作</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">基礎的な関数の利用（1）（SUM、AVERAGE関数等）、計算式の入力</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">基礎的な関数の利用（2）（RANK.EQ関数）、絶対参照・相対参照・複合参照</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">基礎的な関数の利用（3）（ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN、INT関数）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">基礎的な関数の利用（4）（IF関数）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">グラフの利用（グラフの種類と特徴）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">見やすい表の作成（条件付き書式等）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">まとめと応用（到達度確認課題①）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">応用的な関数の利用（1）（COUNTIF、SUMIF関数）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">応用的な関数の利用（2）（IF関数の入れ子、AND、OR関数）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">応用的な関数の利用（3）（VLOOKUP、INDEX関数）</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			タイトル	ガイダンス、Excelの概要、入力基本操作		フリー欄			タイトル	基礎的な関数の利用（1）（SUM、AVERAGE関数等）、計算式の入力		フリー欄			タイトル	基礎的な関数の利用（2）（RANK.EQ関数）、絶対参照・相対参照・複合参照		フリー欄			タイトル	基礎的な関数の利用（3）（ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN、INT関数）		フリー欄			タイトル	基礎的な関数の利用（4）（IF関数）		フリー欄			タイトル	グラフの利用（グラフの種類と特徴）		フリー欄			タイトル	見やすい表の作成（条件付き書式等）		フリー欄			タイトル	まとめと応用（到達度確認課題①）		フリー欄			タイトル	応用的な関数の利用（1）（COUNTIF、SUMIF関数）		フリー欄			タイトル	応用的な関数の利用（2）（IF関数の入れ子、AND、OR関数）		フリー欄			タイトル	応用的な関数の利用（3）（VLOOKUP、INDEX関数）		フリー欄		
タイトル	ガイダンス、Excelの概要、入力基本操作																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	基礎的な関数の利用（1）（SUM、AVERAGE関数等）、計算式の入力																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	基礎的な関数の利用（2）（RANK.EQ関数）、絶対参照・相対参照・複合参照																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	基礎的な関数の利用（3）（ROUND、ROUNDUP、ROUNDDOWN、INT関数）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	基礎的な関数の利用（4）（IF関数）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	グラフの利用（グラフの種類と特徴）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	見やすい表の作成（条件付き書式等）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	まとめと応用（到達度確認課題①）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	応用的な関数の利用（1）（COUNTIF、SUMIF関数）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	応用的な関数の利用（2）（IF関数の入れ子、AND、OR関数）																																																																				
フリー欄																																																																					
タイトル	応用的な関数の利用（3）（VLOOKUP、INDEX関数）																																																																				
フリー欄																																																																					

	第12回
	タイトル データベース (テーブル、並び替え等)
	フリー欄
	第13回
	タイトル ピボットテーブル
	フリー欄
	第14回
	タイトル 応用的な関数の利用 (4) (日付関数等)、Word・PowerPointとの連携
	フリー欄
	第15回
	タイトル まとめと応用 (到達度確認課題②)
	フリー欄
授業概要	本授業では講義・解説に加え、演習を行いながら、Microsoft Excelの基本的な操作を習得する。加えて、実務に使える応用的な操作方法の習得演習を行い、実践的なスキルを身につける。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	知識と技術を定着するための復習に必要な時間を十分確保すること。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	学期の前半は、操作中心の基本的な演習問題を繰り返すことで基礎力を養います。また、授業内で前回授業内容の復習も行うことで、知識と技術の定着を目指します。授業内課題を積み重ねることで、学期の後半には、基本から卒業後も活かせるようなスキルや考える力を段階的に身に付けることができます。
評価方法	「到達度確認課題①」 (30%) および「到達度確認課題②」 (30%)、授業内課題 (40%)、合計：100%で評価する。
参考文献	
備考	USBメモリを持参すること

講義科目名称： 情報処理演習Ⅱ(国) (60220)

授業コード： 60223

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ビジネスシーンにてオフィスツールとして利用頻度の高い表計算ソフトの使い方や機能についての理解を深める。 【到達目標】表計算ソフトウェアを使う上で必須の基本機能（表計算、グラフ作成、関数等）を操作できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス	
	フリー欄	各回の授業ではタイピング課題に取り組みます。	
	第2回		
	タイトル	表計算ソフトウェアとは	
	フリー欄	授業では表計算ソフトウェアとしてMicrosoft Excelを使用します。	
	第3回		
	タイトル	表計算ソフトウェアの基本的な操作	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	表の作成、セルの参照、数式	
	フリー欄	課題 1	
	第5回		
	タイトル	関数の取り扱い	
	フリー欄	課題 2	
	第6回		
	タイトル	関数を使いこなす	
	フリー欄	課題 3	
	第7回		
	タイトル	関数を用いた状況に応じた処理の取り扱い	
	フリー欄	課題 4	
	第8回		
	タイトル	文字列操作、文字列検索	
	フリー欄	課題 5	
第9回			
タイトル	グラフの作成と編集		
フリー欄	課題 6		
第10回			
タイトル	複合グラフの作成		
フリー欄	課題 7		
第11回			
タイトル	簡易データベースとしての利用		
フリー欄	課題 8		
第12回			
タイトル	ピボットテーブルによる集計		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 総合実践（ピボットテーブルによる集計）
	フリー欄 課題 9
	第14回
	タイトル 総合実践（ABC分析）
	フリー欄 課題 10
	第15回
	タイトル まとめ
	フリー欄 期末課題
授業概要	実務で利用されることの多い表計算ソフトの使い方や機能を演習形式で習得し、履修者全員が大学での学びや活動に必要なレベルに到達するとともに、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付ける。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし情報処理演習Ⅱの授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として課題を課します。これまでの学習内容のすべてを確認したうえで、課された課題に取り組み、提出期日までに提出してください。
テキスト	適宜、講義資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	新しい知識や技術の習得は、毎回の授業（演習）を積み重ねていくことにより達成されるものです。授業を欠席しないことはもとより、授業内容を理解し習得できるよう留意して臨んでほしい。授業内で実施するタイピングの練習にも真剣に取り組んでほしい。授業の終わりにリフレクションシートを配布します。リフレクションシートへの記入・提出をもって、当該授業の出席として取り扱います。
評価方法	授業回数の3分の2以上出席した人を成績評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価対象者の成績評価を行います。 [観点①] 授業時間内タイピング課題：20%（3点×15＝45点満点） [観点②] 授業時課題：40%（※各課題の満点は、ルーブリックに設定された配点の合計点とする） [観点③] 期末課題：40%（※配点の総合計を満点とする） 授業時間内タイピング課題は指定の提出時間内に指定のTeams課題ページに提出されたファイルが評価の対象となります。タイピング課題の遅れ提出は評価対象外とします。 授業時課題は配布された課題ファイルで完成させた課題のみ採点を行い、ルーブリックに基づいて評価を行います。課題ファイルは提出期限内に指定のTeams課題ページに提出されたファイルが評価の対象となります。
参考文献	図書館にはExcelに関連する本が数多く所蔵されています。
備考	USBメモリ・配布資料を必ず持参すること

講義科目名称： 情報処理演習Ⅱ(英)(60220)

授業コード： 60224

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
董彦文			
自由表示項目1	自由表示項目2	自由表示項目3	自由表示項目4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	情報化社会においてはMicrosoft社のExcelが不可欠なビジネスツールであり、この授業はExcelの活用方法をテーマとして、Excelの基本的操作を学修し、数値を整理・図示・分析するのに必要な方法と基本知識を学びます。日商PC検定試験3級に合格するレベルを到達目標とします。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンスとExcelの基本的操作：データ入力・編集、オートフィル	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	集計と計算式	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	計算式と相対参照・絶対参照	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	相対参照・絶対参照の復習	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	総合演習(1)：計算式と相対参照・絶対参照	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	関数の使い方(1)：SUM, MAX, MIN, AVERAGE, COUNTなど	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	関数の使い方(2)：IF, SUMIF, COUNTIF, VLOOKUPなど	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	総合演習(2)：関数の活用	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	グラフの活用(1)：散布図、折れ線グラフ、棒グラフなど		
フリー欄			
第10回			
タイトル	グラフの活用(2)：レーダーチャートなど		
フリー欄			
第11回			
タイトル	グラフの活用(3)：複合グラフの作成・書式設定		
フリー欄			
第12回			
タイトル	総合演習(3)：グラフの活用		
フリー欄			

	第13回
	タイトル ピボットテーブルの使い方
	フリー欄
	第14回
	タイトル データベース機能と活用方法
	フリー欄
	第15回
	タイトル 総合演習(4): ピボットテーブルとデータベース
	フリー欄
授業概要	毎回、学習テーマを設定し、操作方法を説明しながら一緒に操作練習をしたあと、学習テーマに沿った課題をこなすことで基本的操作を習得できるようにします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中にわからなかったパソコン用語の意味を調べたり、Excelを繰り返して使う必要があります。空き時間などを活用してタイピング練習をしてください。
テキスト	主にインターネット上の情報を参照します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	専門用語をたくさん覚えなければいけないため結構戸惑うし、教員の説明を受けながらパソコンを操作しなければならぬためついていけないと思うかもしれません。いつでも気軽に手を挙げて質問してください。
評価方法	授業内課題（40%）と総合演習の課題（60%）
参考文献	授業の進行に合わせて、参考サイトを掲示します。
備考	

講義科目名称： 情報処理演習Ⅱ(日・社) (60220)

授業コード： 60225

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
石崎 毅			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	表計算ソフトエクセルの基本操作を習得するとともに、業務でよく用いられる書類の種類や代表的な計算手法を学ぶことを通して、会社勤務や起業したときにすぐに役立つ効率的に数値処理ができる力を育む。具体的な水準は、日商PC検定3級レベルとする。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンスとエクセルが使われる実務場面	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	データ入力と計算処理の基本（基本関数と演習）	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	表の作成と関数利用の基本（IF関数と演習）	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	業務でよく使用する計算（割引、構成比、原価率など）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	業務でよく使用する集計（単純集計、クロス集計など）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	データ管理と分析（グラフ化、ABC分析など）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	業務書類の作成	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	ここまでのまとめと演習	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	集計機能（小計の計算機能と演習）		
フリー欄			
第10回			
タイトル	ピボットテーブル（その利便性と演習）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	関数集計（COUNTIF関数、SUMIF関数と演習）		
フリー欄			
第12回			
タイトル	グラフ機能（グラフの作成）		
フリー欄			

	第13回
	タイトル グラフ機能 (複合グラフの作成)
	フリー欄
	第14回
	タイトル 第14回までの既習事項をふまえた課題の解決
	フリー欄
	第15回
	タイトル 総合課題
	フリー欄
授業概要	操作解説と演習を効果的に配分して、問題解決力を高めていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	学習した操作を繰り返し復習してください。
テキスト	必要に応じて資料を配布します。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	エクセルはワードよりも難しく感じると思います。学習内容の定着が図れるように授業を構成したいと思いますので、みなさんも努力して授業に、そして特に復習に取り組んでください。
評価方法	授業70% (授業ごとの提出課題と出席状況を評価します。) 期末課題30% (授業で学習した内容についての総合問題で評価します。)
参考文献	
備考	

講義科目名称： 応用情報処理演習 I (60260)

授業コード： 60260

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
西川 友子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義・演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】業務データの処理・分析など、将来のビジネスパーソンとして必要な情報リテラシーの素養の基礎を身につける。 【到達目標】日商PC検定試験データ活用2級[実技科目]合格レベル相当の表計算ソフトウェアの操作を行える。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンス、データ入力の基本	
	フリー欄	授業ではタイピング課題に取り組む。表計算ソフトウェアはMicrosoft Excelを使用する。	
	第2回		
	タイトル	データ分析に利用する基礎的な計算、データ分析によく使用する機能	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	表作成の活用	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	表作成の活用とデータ処理における計算	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	表作成の活用・表からの該当データの検索	
	フリー欄	課題 1	
	第6回		
	タイトル	ピボットテーブルの活用	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	ピボットテーブルの編集	
	フリー欄	課題 2	
	第8回		
	タイトル	グラフの活用（レーダーチャート、散布図）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	グラフの活用（ABC分析、パレート図）		
フリー欄			
第10回			
タイトル	グラフの活用（近似直線の追加）		
フリー欄	課題 3		
第11回			
タイトル	総合実践（模擬試験問題に挑戦）		
フリー欄			
第12回			
タイトル	総合実践（模擬試験問題に挑戦）		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 総合実践（模擬試験問題に挑戦）
	フリー欄
	第14回
	タイトル 総合実践（模擬試験問題に挑戦）
	フリー欄
	第15回
	タイトル まとめの試験
	フリー欄 日商PC検定試験データ活用 [実技科目] の2級程度の問題に挑戦する
授業概要	パソコン・表計算ソフトウェアを利用した情報活用について、毎回実践的に演習していくことにより、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付ける。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし応用情報処理演習Ⅰの授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として課題を課します。授業を踏まえて教科書を今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理したうえで、授業時課題に取り組み、提出期日までに提出してください。
テキスト	日本商工会議所編「よくわかるマスター 日商PC検定試験 データ活用 2級 公式テキスト&問題集 Excel 2019/2016対応」、FOM出版、3,300円（税込価格）、ISBNコード：978-4-938927-31-8
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	履修条件は①日商PC検定データ活用3級合格または②日商PC検定データ活用3級合格相当のスキルを有する方とします。テキストは必ず購入してください。授業の終わりにリフレクションシートを配布します。リフレクションシートへの記入・提出をもって、当該授業の出席として取り扱います。
評価方法	授業回数3分の2以上出席した人を成績評価の対象とし、次の評価方法にしたがって評価対象者の成績評価を行います。 [観点①] 授業時間内タイピング課題：20%（※3点×15＝45点満点とする） [観点②] 授業時課題：40%（※各課題の満点は、ルーブリックに設定された配点の合計点とする） [観点③] まとめ試験：40%（※満点は、採点表に設定された配点の合計点とする） まとめ試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。 授業時間内タイピング課題は指定の提出時間内に指定のTeams課題ページに提出されたファイルが評価の対象となります。 授業時課題は配布された課題ファイルで完成させた課題のみ採点を行い、ルーブリックに基づいて評価を行います。課題ファイルは提出期限内に指定のTeams課題ページに提出されたファイルが評価の対象となります。
参考文献	図書館にはExcelや日商PC検定試験データ活用に関連する本が数多く所蔵されています。
備考	テキスト・USBメモリは必ず持参してください。

講義科目名称： 英語一（60310）

授業コード： 60310

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業は、TOEIC®L&Rの問題演習を通して、英語の語彙、リスニング、リーディングの力を養うと同時に、TOEIC®L&Rの問題形式に慣れることを目標とします。 具体的な到達目標は次の通りです。 ①TOEIC®L&R試験で出題される音声を聴きとることができる。 ②TOEIC®L&R試験で出題される英文を読み取ることができる。 ③TOEIC®L&R試験の問題形式に慣れ、解答することができる。</p>
--------------	---

授業計画	第1回	
	タイトル	イントロダクション
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	Unit 1 旅行①
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	Unit 2 オフィス①
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	Unit 3 レストラン
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	Unit 4 季節・天気
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	Unit 5 健康
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	Unit 6 旅行②
	フリー欄	
	第8回	
タイトル	中間試験と振り返り	
フリー欄		
第9回		
タイトル	Unit 7 休暇	
フリー欄		
第10回		
タイトル	Unit 8 オフィス②	
フリー欄		
第11回		
タイトル	Unit 9 ショッピング	
フリー欄		

	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	Unit 10 就職活動
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	Unit 11 娯楽
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Unit 12 旅行③
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	期末試験と振り返り
	フリー欄	
授業概要	授業計画に沿って教科書を進めていきます。授業中に演習と解説を行います。	
実務経験及び授業の内容	該当しない	
時間外学習	この授業では、復習が重要になります。授業後は必ず復習をして、知識の定着を図りましょう。授業中に解いた問題を解き直すことも大切です。また、教科書以外の英語の文章をたくさん読むことも英語力を向上させるうえで有効です。	
テキスト	鶴岡公幸、Matthew Wilson、『The TOEIC®Listening and Reading Test CIRCUIT Updated Edition』松柏社 ISBN: 978-4-88198-729-2 (¥1900+税)	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)		
評価方法	中間テスト (50%)、期末試験 (50%)	
参考文献		
備考	授業には必ず辞書を持参してください。	

講義科目名称： 英語二 (60320)

授業コード： 60320

英文科目名称： English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習・講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本英文法の再確認をテーマとします。 ・構文を理解して英文読解の基礎力をつけることを目標とします。 <p>【定員を設けます。受講生が多い場合は初回授業での抽選となります。】</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	Intoroduction：5文型について	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	Unit 1 名詞 ・ Unit 2 冠詞	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	Unit 3 代名詞 (1) ・ Unit 4 代名詞 (2)	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	Unit 5 時制 ・ Unit 6 進行形	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	Unit 7 完了形 (1) ・ Unit 8 完了形 (2)	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	Unit 9 助動詞 (1) ・ Unit 10 助動詞 (2)	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	Unit 11 態 (1) ・ Unit 12 態 (2)	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	Unit 13 不定詞 (1) ・ Unit 14 不定詞 (2)	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	Unit 15 分詞 (1) ・ Unit 16 分詞 (2)		
フリー欄			
第10回			
タイトル	Unit 17 動名詞 (1) ・ Unit 18 動名詞 (2)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	Unit 19 形容詞・副詞 ・ Unit 20 比較 (1)		
フリー欄			
第12回			
タイトル	Unit 21 比較 (2) ・ Unit 22 前置詞		
フリー欄			

	第13回
	タイトル Unit 23 関係詞 (1) ・ Unit 24 関係詞 (2)
	フリー欄
	第14回
	タイトル Unit 25 仮定法 (1) ・ Unit 26 仮定法 (2)
	フリー欄
	第15回
	タイトル まとめ：構文の理解
	フリー欄
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語が苦手だけれども、チャレンジしたい学生向けの授業とします。 ・ 特に英文法の復習を目的とします。 ・ テキストの構成は、前半が文法説明とその練習問題、後半は短いエッセイです。 ・ 授業では1回に2課進むことを目標にします。 ・ 画像、動画、音楽などを紹介し異文化理解を深めてもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習ノートを作り授業の予習をしてきてください。 ・ 授業中にわからなかった語句の意味を調べてください。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『読解力につなげるコア英文法』（朝日出版）1600円（本体価格）ISBN 978-4-255-15638-5 【購買部のさわりびで購入できます。】
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解答の提示はPower Pointを使います。 ・ 学務システムを利用して出席を取ります。 ・ 3回の遅刻で1回の欠席とします。 ・ 5回の欠席で失格（筆記試験受験不可）とします。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加度・出席（50%）、筆記試験（50%） ・ 筆記試験に和訳は出ません。
参考文献	
備考	

講義科目名称： 英語三 (60330)

授業コード： 60330

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業は、TOEIC®L&Rの問題演習を通して、英語の語彙、リスニング、リーディングの力を養うと同時に、TOEIC®L&Rの問題形式に慣れることを目標とします。 具体的な到達目標は次の通りです。 ①TOEIC®L&R試験で出題される音声を聴きとることができる。 ②TOEIC®L&R試験で出題される英文を読み取ることができる。 ③TOEIC®L&R試験の問題形式に慣れ、解答することができる。</p>
--------------	---

授業計画	第1回	
	タイトル	イントロダクション
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	Unit 1 旅行①
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	Unit 2 オフィス①
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	Unit 3 レストラン
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	Unit 4 季節・天気
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	Unit 5 健康
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	Unit 6 旅行②
フリー欄		
第8回		
タイトル	中間試験と振り返り	
フリー欄		
第9回		
タイトル	Unit 7 休暇	
フリー欄		
第10回		
タイトル	Unit 8 オフィス②	

	フリー欄	
	第11回	
	タイトル	Unit 9 ショッピング
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	Unit 10 就職活動
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	Unit 11 娯楽
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Unit 12 旅行③
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	期末試験と振り返り
	フリー欄	
授業概要	授業計画に沿って教科書を進めていきます。授業中に演習と解説を行います。	
実務経験及び授業の内容	該当しない	
時間外学習	この授業では、復習が重要になります。授業後は必ず復習をして、知識の定着を図りましょう。授業中に解いた問題を解き直すことも大切です。また、教科書以外の英語の文章をたくさん読むことも英語力を向上させるうえで有効です。	
テキスト	鶴岡公幸、Matthew Wilson、『The TOEIC®Listening and Reading Test CIRCUIT Updated Edition』松柏社 ISBN: 978-4-88198-729-2 (¥1900+税)	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)		
評価方法	中間テスト (50%)、期末試験 (50%)	
参考文献		
備考	授業には必ず辞書を持参してください。	

講義科目名称： 英語四（60340）

授業コード： 60340

英文科目名称： ー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	TOEICテストの対策を行う。 1. 英文法を復習する。 2. 効率的な解答方法を身につけることができる。 3. 英語を意味のあるまとまりとして聞き取ることができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	イントロダクション	
	フリー欄	授業の進め方、評価方法についての説明	
	第2回		
	タイトル	Chap. 1	
	フリー欄	基本文型の確認。 問題の解答。	
	第3回		
	タイトル	Chap. 2	
	フリー欄	名詞の修飾の確認。 問題の解答。	
	第4回		
	タイトル	Chap. 3	
	フリー欄	文と文の接続について。 問題の解答。	
	第5回		
	タイトル	Chap. 4	
	フリー欄	進行形と受動態の確認。 問題の解答。	
	第6回		
	タイトル	Chap. 5	
	フリー欄	知覚動詞と使役動詞の確認。 問題の解答。	
	第7回		
	タイトル	Chap. 6	
	フリー欄	助動詞の確認。 問題の解答。	
	第8回		
タイトル	Chap. 7		
フリー欄	助動詞＋完了形の確認。 問題の解答。		
第9回			
タイトル	Chap. 8		
フリー欄	時制（現在・過去・未来）の確認。 問題の解答。		
第10回			
タイトル	Chap. 9		
フリー欄	現在完了形の確認。 問題の解答。		
第11回			

	タイトル	Chap. 10
	フリー欄	前置詞の確認。 問題の解答。
	第12回	
	タイトル	Chap. 11
	フリー欄	不定詞の確認。 問題の解答。
	第13回	
	タイトル	Chap. 12
	フリー欄	仮定法過去の確認。 問題の解答。
	第14回	
	タイトル	Chap. 13
	フリー欄	仮定法過去完了の確認。 問題の解答。
	第15回	
	タイトル	Chap. 14
	フリー欄	動名詞と分詞構文の確認。 問題の解答。
授業概要	TOEIC対策を行う。英文法の確認に重点をおいたテキストを使用し、一回の授業につき一章ずつ進める。英文法の確認、テキストのTOEIC形式の問題の解答を行う。TOEIC形式の問題の解答は、授業時間内にteamsを利用して行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	各Chapterのはじめにでてくる“Vocabulary”と“Grammar”のパートを予習しておくこと。毎日、5分程度英語を聞くようにすること。	
テキスト	松岡昇・傍島一夫著 『Start with Grammar Review for the TOEIC L&R Test_』 『文法復習型TOEIC L&R Test対策 (松柏社) 、2,100円+税。ISBN: 9784881987841』	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	TOEIC Testでの高得点を目指すのであれば、毎日の努力が必要です。英語のニュースや映画などを見る、単語の確認を行うなど、英語を生活のなかに取り込んでください。	
評価方法	毎授業、teamsを使用してテキストの問題 (10 - 20問程度) を解答してもらいます。その正答率によって評価します。正答率が、90%以上 S、70%以上 A、50%以上 B、30% C、29%以下 F。単位認定の条件として、全授業回数の三分の二以上の出席を求めます。	
参考文献	英和辞典。高校時代に使用していたもので可。	
備考	授業にはかならず英和辞典を持参すること。受講希望者が多数の場合は、抽選等の方法により、受講調整を行います。状況によっては遠隔授業になります。その際は、teamsを利用した授業になります。適宜授業内容を変更します。	

講義科目名称： 英語五 (60350)

授業コード： 60350

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 亜希			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 平易な英語で書かれた文学作品を読むことによって、基礎的な読解力を涵養する。</p> <p>2. 基本的な語彙力と文法力を習得し、英文読解に活用できる。</p> <p>3. コンテキストに留意して英文を読み解く力を身につけ、英文の意味を正確に理解することができる。</p> <p>4. 物語の背景にある英語圏の文化と思想を学ぶことで、文化的コンテキストに留意して英文を理解することができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	授業ガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	英文読解の基礎①—一品詞	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	英文読解の基礎②—5文型	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	The Happy Prince を読む：準動詞を捉える	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	The Happy Prince を読む：文型を捉える	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	The Happy Prince を読む：関係詞を捉える	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	The Happy Prince を読む：分詞の見極め方	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	The Happy Prince を読む：that の見極め方 小テスト①	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	The Happy Prince を読む：仮定法を捉える	
	フリー欄		
	第10回		
	タイトル	The Happy Prince を読む：動名詞を捉える	
	フリー欄		
	第11回		
	タイトル	The Happy Prince を読む：不定詞を捉える	
	フリー欄		
	第12回		
	タイトル	The Happy Prince を読む：分詞構文を捉える	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	The Happy Prince を読む：同格を捉える
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	The Happy Prince を読む：テキストの解釈について
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	授業のまとめ：小テスト②
	フリー欄	
授業概要	アイルランドの作家オスカー・ワイルド (Oscar Wilde, 1854-1900) の童話「幸福の王子」(The Happy Prince, 1888) を、基本的な語彙と文法に留意し、一文ずつ訳読しながら読み進めます。読解に必要な文法事項は適宜詳しく解説します。また、小説の読解を通じて、英語圏の文化と思想についても解説します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回指定された箇所について、辞書を丁寧に引いて予習すること。 ・授業で解説した文法事項について、辞書や文法書を活用して復習すること。 	
テキスト	初回の授業でハンドアウトを配布します。	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料配布等のためにTeamsを利用することがあります。Office365のアカウントでTeamsにログインし、チーム「英語五」に参加してください。 ・基本的な文法事項を詳しく解説し、できるだけ丁寧に読み進めたいと思います。 ・辞書を必ず用意し、毎回十分な予習を行って授業に臨んでください。 	
評価方法	授業時間内に実施する小テスト×2回 (100%)。授業回数数の3分の2以上の出席が条件です。	
参考文献	適宜紹介します。	
備考		

講義科目名称： 英語六 (60360)

授業コード： 60360

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
今井 コレット			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	In this class, we will study for the TOEIC test. There will be opportunities in every class to practice listening and reading skills. Each week, a different grammar point will be reviewed.		
授業計画	第1回		
	タイトル	Restaurants	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	Entertainment	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	Business	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	The Office	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	Telephone	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	Letters & Emails	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	Health	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	The Bank & The Post Office	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	New Products		
フリー欄			
第10回			
タイトル	Travel		
フリー欄			
第11回			
タイトル	Daily Life		
フリー欄			
第12回			
タイトル	Job Applications		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	Shopping
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Education
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	General Review
	フリー欄	
授業概要	A lot of pair work and group work will be done in class to enable you to communicate and cooperate with other students.	
実務経験及び授業の内容	In this class, we will study for the TOEIC test. There will be opportunities in every class to practice listening and reading skills. Each week, a different grammar point will be reviewed.	
時間外学習	Please do your best to increase your vocabulary. Find a way that you enjoy such as listening to English songs, looking at YouTube videos about things that interest you.	
テキスト	Best Practice For The TOIEC L&R Test Itermidiate YOSHIZUKA Hiroshi, Graham Skerrit & Michael Schauerte SEIBIDO ISBN978-4-7919-7253-1	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	Please participate in class as much as possible. Feel free to ask questions when you don't understand. Your participation will be taken into account in your final assessment score.	
評価方法	Participation (20%), Half-time Test(30%), Final Test(50%)	
参考文献	Make English fun and yours!	
備考		

講義科目名称： 英語七 (60370)

授業コード： 60370

英文科目名称： 一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	TOEICの出題形式を知り、問題演習を通して慣れることを目標とします。また、基本的なlistening能力やreading能力をupするためのexerciseにも取り組みます。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄	Self - Introduction	
	第2回		
	タイトル	Pre-Test	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	Unit1 Food & Restaurant pp24-33	
	フリー欄	名詞	
	第4回		
	タイトル	Unit2 Entertainment pp34-43	
	フリー欄	代名詞	
	第5回		
	タイトル	Unit3 Travel pp44-53	
	フリー欄	助動詞	
	第6回		
	タイトル	Unit4 Sports & Health pp54-63	
	フリー欄	形容詞	
	第7回		
	タイトル	Unit5 Purchasing pp64-73	
	フリー欄	時制 (1) 現在進行形	
	第8回		
	タイトル	Unit6 Housing & Accommodations pp74 - 83	
	フリー欄	時制 (2) 過去形・現在完了形	
第9回			
タイトル	Unit7 Office Work (1) pp84 - 93		
フリー欄	動名詞と不定詞		
第10回			
タイトル	Unit8 Office Work (2) pp94-103		
フリー欄	似た意味を持つ前置詞		
第11回			
タイトル	Unit9 Employment pp104-113		
フリー欄	注意すべき比較級		
第12回			
タイトル	Unit10 Lectures & Presentations pp114-123		

	フリー欄	仮定法
	第13回	
	タイトル	Unit11 Bussiness Affairs (1) pp124-133
	フリー欄	関係詞
	第14回	
	タイトル	Unit12 Bussiness Affairs (2) pp134-143
	フリー欄	接続詞
	第15回	
	タイトル	習熟度の確認
	フリー欄	
	第16回	
	タイトル	試験など
	フリー欄	
授業概要	ユニットの前半では、リスニング能力アップのための会話の聞き取りやリーディング能力アップのための速読、文法開設などとともにexerciseに取り組み、後半では、MINI TOEIC L&R TESTに挑戦します。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	音声を手に入れて、ダイアログや本文を音読する。語彙を書いて覚える。	
テキスト	Fast Pass for the TOEIC L&R Test <改訂版> (2019) センゲージ ラーニング 著者 上仲律子、是近成子 ¥2,310(税込) ISBN 978-4-86312-350-2 さわらびで購入可能	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	音声はダウンロードで手に入ります。聞き取れなかった部分を聞き取れるようになるまで繰り返し聞きましょう。また、語彙増強が英語力アップの要なので、教科書についている無料の学習ツールQuialetを活用しましょう。	
評価方法	TOEIC形式のミニ模試(Listening+Reading 50問)の筆記試験を行います。 提出物も評価の対象とします。 授業参加(アクティビティへの参加など20点)、提出物(30点)、学期末試験(50点)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 英語八 (60380)

授業コード： 60380

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	4技能のエクササイズに取り組みます。基本的な知識を身に着けることが目標です。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション Self - Introduction	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	Unit1 Resellers-Good or Bad	
	フリー欄	Be 動詞	
	第3回		
	タイトル	Unit2 About Earphones	
	フリー欄	一般動詞	
	第4回		
	タイトル	Unit3 Cash Registers	
	フリー欄	名詞・代名詞	
	第5回		
	タイトル	Unit4 Funny Happenings During Online Lessons	
	フリー欄	過去形	
	第6回		
	タイトル	Unit5 Loose-Fitting Clothing	
	フリー欄	進行形	
	第7回		
	タイトル	Unit6 Shrinkflation	
	フリー欄	Wh疑問文	
	第8回		
	タイトル	Unit7 Living in the Countryside	
	フリー欄	前置詞	
第9回			
タイトル	Unit8 Hanging Out in Streets and Parks		
フリー欄	接続詞		
第10回			
タイトル	Unit9 Plant Burgers Are Popular in America		
フリー欄	現在完了形		
第11回			
タイトル	Unit10 South Korean Culture Is Popular Worldwide		
フリー欄	未来表現		
第12回			
タイトル	Unit11 Doxing		

	フリー欄	助動詞
	第13回	
	タイトル	Unit12 Fast Movies
	フリー欄	受動態
	第14回	
	タイトル	Unit13 Do We Need a "Dislike" Button on Socialo Media?
	フリー欄	形容詞・副詞
	第15回	
	タイトル	習熟度の確認
	フリー欄	
	第16回	
	タイトル	試験など
	フリー欄	
授業概要	Reading は速読の練習をし、そのあと、精読によって使用されている表現と基本的な文法事項を確認します。ListeningとSpeakingの練習にも取り組みます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	音声を手に入れて、音読をする。	
テキスト	Trend Scope (2023) 成美堂 Jonathan Lynch・委文 光太郎 著 ¥2,640(税込) ISBN: 978-4-7919-7265-4 さわらびで購入可能	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	ListeningのConversationや Readingの本文の内容を確認した後、repeatingしたり、ペアワークで音読したりして体に叩き込んでいきます。使えそうな表現や語彙は読み方を確認し、書いて覚えましょう。なお、Readingは和訳担当を決めて授業中に発表していただきます。一文ずつ英文を読んでから、訳をします。クラス全体に聞こえるように、はっきり、ゆっくりを心掛けましょう。和訳は紙に書いて発表後に提出しましょう。	
評価方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。 提出物も評価の対象とします。 授業参加(アクティビティへの参加など30点)、提出物(20点)、学期末試験(50点)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 英語九 (60390)

授業コード： 60390

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業は、TOEIC®L&Rの問題演習を通して、英語の語彙、リスニング、リーディングの力を養うと同時に、TOEIC®L&Rの問題形式に慣れることを目標とします。 具体的な到達目標は次の通りです。 ①TOEIC®L&R試験で出題される音声を聴きとることができる。 ②TOEIC®L&R試験で出題される英文を読み取ることができる。 ③TOEIC®L&R試験の問題形式に慣れ、解答することができる。</p>
--------------	---

授業計画	第1回	
	タイトル	イントロダクション
	フリー欄	
	第2回	
	タイトル	Unit 1 旅行①
	フリー欄	
	第3回	
	タイトル	Unit 2 オフィス①
	フリー欄	
	第4回	
	タイトル	Unit 3 レストラン
	フリー欄	
	第5回	
	タイトル	Unit 4 メディア
	フリー欄	
	第6回	
	タイトル	Unit 5 健康
	フリー欄	
	第7回	
	タイトル	Unit 6 旅行②
	フリー欄	
	第8回	
タイトル	Unit 7 オフィス②	
フリー欄		
第9回		
タイトル	Unit 8 不動産・住宅	
フリー欄		
第10回		
タイトル	Unit 9 ショッピング	
フリー欄		
第11回		

	タイトル	Unit 10 就職活動
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	Unit 11 旅行③
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	Unit 12 天気・環境
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Unit 13 娯楽・スポーツ
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	期末試験と振り返り
	フリー欄	
授業概要	授業計画に沿って教科書を進めていきます。授業中に演習と解説を行います。授業ごとに小テストを実施します。	
実務経験及び授業の内容	該当しない	
時間外学習	この授業では、復習が重要になります。授業後は必ず復習をして、知識の定着を図りましょう。授業中に解いた問題を解き直すことも大切です。また、授業以外で英語の勉強をすることも（英語に触れることも）英語力を向上させるためには必要です。	
テキスト	鶴岡公幸、佐藤千春、Matthew Wilson、『Maximize Your Score on the TOEIC® L&R TEST』松柏社 ISBN: 978-4-88198-792-6 (¥2100+税)	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）		
評価方法	小テスト（50%）、期末試験（50%）	
参考文献		
備考	授業には必ず辞書を持参してください。	

講義科目名称： 英会話A (60400)

授業コード： 60400

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
今井 コレット			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Reflecting on the world's development and the issues we face, this course aims to prepare you to speak in English about topics concerning us all on an individual and broader level.		
授業計画	第1回		
	タイトル	Global perspectives	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	Climate change	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	Water	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	Clean energy	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	Poverty	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	Hunger	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	Children	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	Gender	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	Refugees	
フリー欄			
第10回			
タイトル	Insects		
フリー欄			
第11回			
タイトル	Vegetarianism		
フリー欄			
第12回			
タイトル	Plastic waste		
フリー欄			
第13回			

	タイトル	Shopping
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Partnerships
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	Final test / presentation
	フリー欄	
授業概要	Each unit begins with an introduction to the vocabulary relevant to each topic. Pairs or small groups of students will read about the topic together and then discuss the follow-up questions. The final section of each unit is dedicated to students discussing what can be done to solve various issues they have discussed.	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	Vocabulary and short assignments	
テキスト	Living as Global Citizens 地球市民として生きる ISBN 978-4-523-17931-3	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	You will all have many opportunities to express your opinions in various situations. My hope for you in this course is to help you think about issues affecting us all and develop the skills to talk about them.	
評価方法	Short tests in class (50%) and presentations(50%)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 英会話B (60410)

授業コード： 60410

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
今井 コレット			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Reflecting on the world's development and the issues we face, this course aims to prepare you to speak in English about topics concerning us all on an individual and broader level.		
授業計画	第1回		
	タイトル	Global perspectives	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	Climate change	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	Water	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	Clean energy	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	Poverty	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	Hunger	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	Children	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	Gender	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	Refugees	
フリー欄			
第10回			
タイトル	Insects		
フリー欄			
第11回			
タイトル	Vegetarianism		
フリー欄			
第12回			
タイトル	Plastic waste		
フリー欄			
第13回			

	タイトル	Shopping
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Partnerships
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	Final test / presentation
	フリー欄	
授業概要	Each unit begins with an introduction to the vocabulary relevant to each topic. Pairs or small groups of students will read about the topic together and then discuss the follow-up questions. The final section of each unit is dedicated to students discussing what can be done to solve various issues they have discussed.	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	Vocabulary and short assignments	
テキスト	Living as Global Citizens 地球市民として生きる ISBN 978-4-523-17931-3	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	You will all have many opportunities to express your opinions in various situations. My hope for you in this course is to help you think about issues affecting us all and develop the skills to talk about them.	
評価方法	Short tests in class (50%) and presentations(50%)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 英会話C (60420)

授業コード： 60420

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
今井 コレット			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Reflecting on the world's development and the issues we face, this course aims to prepare you to speak in English about topics concerning us all on an individual and broader level.		
授業計画	第1回		
	タイトル	Global perspectives	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	Climate change	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	Water	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	Clean energy	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	Poverty	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	Hunger	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	Children	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	Gender	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	Refugees	
フリー欄			
第10回			
タイトル	Insects		
フリー欄			
第11回			
タイトル	Vegetarianism		
フリー欄			
第12回			
タイトル	Plastic waste		
フリー欄			
第13回			

	タイトル	Shopping
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Partnerships
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	Final test / presentation
	フリー欄	
授業概要	Each unit begins with an introduction to the vocabulary relevant to each topic. Pairs or small groups of students will read about the topic together and then discuss the follow-up questions. The final section of each unit is dedicated to students discussing what can be done to solve various issues they have discussed.	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	Vocabulary and short assignments	
テキスト	Living as Global Citizens 地球市民として生きる ISBN 978-4-523-17931-3	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	You will all have many opportunities to express your opinions in various situations. My hope for you in this course is to help you think about issues affecting us all and develop the skills to talk about them.	
評価方法	Short tests in class (50%) and presentations(50%)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 英会話D (60430)

授業コード： 60430

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
今井 コレット			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Reflecting on the world's development and the issues we face, this course aims to prepare you to speak in English about topics concerning us all on an individual and broader level.		
授業計画	第1回		
	タイトル	Global perspectives	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	Climate change	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	Water	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	Clean energy	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	Poverty	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	Hunger	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	Children	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	Gender	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	Refugees	
フリー欄			
第10回			
タイトル	Insects		
フリー欄			
第11回			
タイトル	Vegetarianism		
フリー欄			
第12回			
タイトル	Plastic waste		
フリー欄			
第13回			

	タイトル	Shopping
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	Partnerships
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	Final test / presentation
	フリー欄	
授業概要	Each unit begins with an introduction to the vocabulary relevant to each topic. Pairs or small groups of students will read about the topic together and then discuss the follow-up questions. The final section of each unit is dedicated to students discussing what can be done to solve various issues they have discussed.	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	Vocabulary and short assignments	
テキスト	Living as Global Citizens 地球市民として生きる ISBN 978-4-523-17931-3	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	You will all have many opportunities to express your opinions in various situations. My hope for you in this course is to help you think about issues affecting us all and develop the skills to talk about them.	
評価方法	Short tests in class (50%) and presentations(50%)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 異文化理解実習（60451）

授業コード： 60451

英文科目名称： 一

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修
担当教員			
英語英文学科専任教員			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 英語圏における語学学校などの施設での研修を通して、現地の人々と英語で交流し、英語コミュニケーション能力と英語表現能力を向上させること</p> <p>(2) 課外活動やホームステイ等の異文化体験を通し多様性の理解と適応能力を養うこと</p>																																																																																										
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">ガイダンス：異文化理解実習の目的と概要説明、渡航に必要な事務手続の連絡</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">外国語コミュニケーション：英語コミュニケーションの基本について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">英語表現：生活に必要な具体的な英語表現について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">異文化理解（1）：多様性の理解について</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">異文化理解（2）：異文化適応について</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">実習：第1日 語学学校でのオリエンテーションとクラス分けなど</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ・移動日を含めて10日程度：学校で1日8時間（5日40時間）、異文化体験（休日分10時間） ・実習前日までに日本から現地まで移動 </td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	ガイダンス：異文化理解実習の目的と概要説明、渡航に必要な事務手続の連絡			フリー欄				タイトル	外国語コミュニケーション：英語コミュニケーションの基本について学ぶ			フリー欄				タイトル	英語表現：生活に必要な具体的な英語表現について学ぶ			フリー欄				タイトル	異文化理解（1）：多様性の理解について			フリー欄				タイトル	異文化理解（2）：異文化適応について			フリー欄				タイトル	実習：第1日 語学学校でのオリエンテーションとクラス分けなど			フリー欄	<ul style="list-style-type: none"> ・移動日を含めて10日程度：学校で1日8時間（5日40時間）、異文化体験（休日分10時間） ・実習前日までに日本から現地まで移動 			タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習			フリー欄				タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習			フリー欄				タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習			フリー欄				タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習			フリー欄				タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習			フリー欄			
タイトル	ガイダンス：異文化理解実習の目的と概要説明、渡航に必要な事務手続の連絡																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	外国語コミュニケーション：英語コミュニケーションの基本について学ぶ																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	英語表現：生活に必要な具体的な英語表現について学ぶ																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	異文化理解（1）：多様性の理解について																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	異文化理解（2）：異文化適応について																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	実習：第1日 語学学校でのオリエンテーションとクラス分けなど																																																																																										
フリー欄	<ul style="list-style-type: none"> ・移動日を含めて10日程度：学校で1日8時間（5日40時間）、異文化体験（休日分10時間） ・実習前日までに日本から現地まで移動 																																																																																										
タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習																																																																																										
フリー欄																																																																																											
タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習																																																																																										
フリー欄																																																																																											

	タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習
	フリー欄	
授業概要	<p>英語圏（英語が母語あるいは日常のコミュニケーションの手段として広く使われている地域）の国での実習を通常春期・夏期休み期間（例年2月）に予定しています。英語英文学科の引率教員が渡航前に事前実習を10時間実施し、現地への移動方法、実習内容についても説明します。1回目の事前実習は半年以上前の月とし、その後毎月1回程度事前実習を予定しています。日程は実習生と教員の時間割に合わせて調整します。事前実習指導の後、実習国に渡航します。語学学校などの実習施設で授業を受けることによって、英語コミュニケーション練習をします。また、課外活動を通じて、異文化経験を積みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間：移動日を含めて2週間以内 ・場所：英語圏の国を予定（決定次第揭示、事前実習でお知らせします） ・学科を問わず事前指導を受講した者は参加可能です。安全、円滑な実習実現のため、最終的に渡航できるのは、やむを得ない理由の場合を除き、毎回の事前指導講座に出席した者としてします。 	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	新聞やニュースをチェックして、実習に訪れる地域の取り巻く問題に興味や関心を持つこと。	
テキスト	資料と教材を事前指導および現地校にて適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どの学科の学生も参加できます。	
評価方法	事前指導参加（25%）、現地活動状況(65%)、実習後レポート（10%）	
参考文献		
備考		

講義科目名称： フランス語一 (60460)

授業コード： 60461 60462

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。		
授業計画	第1回		
	タイトル	授業ガイダンス/アルファベ、略語、つづり字記号	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	つづり字の読み方	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	1課 主語人称代名詞、国籍を表す形容詞	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	1課 国籍を表す形容詞、動詞êtreの直説法現在	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	1課 日常の基本的な挨拶 / 2課 名詞と不定冠詞	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	2課 名詞と不定冠詞、形容詞の性・数の一致	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	2課 形容詞の性・数の一致、色の語彙	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	これまでのまとめ / フランス文化紹介	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	Civilisation フランス料理		
フリー欄			
第10回			
タイトル	Civilisation フランス料理 (発展学習)		
フリー欄			
第11回			
タイトル	3課 第一群規則動詞-er動詞の直説法現在		
フリー欄			
第12回			
タイトル	3課 定冠詞		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 3課 疑問文
	フリー欄
	第14回
	タイトル フランス文化紹介
	フリー欄
	第15回
	タイトル 前期内容の理解度確認 / 前期のまとめ
	フリー欄
授業概要	フランス語を初めて学ぶ学生向けの講義です。フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。また、フランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。 (大学内の購買部で購入可能。)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度 (20%)、宿題の提出 (20%)、期末試験の結果 (60%) の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称： フランス語二 (60470)

授業コード： 60471 60472

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。		
授業計画	第1回		
	タイトル	前期の復習	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	4課 動詞avoirの直説法現在、形容詞の位置	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	4課 否定文、人称代名詞の強勢形	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	4課 avoirを使った慣用表現 / 5課 動詞allerの直説法現在	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	5課 近接未来、指示形容詞	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	5課 動詞faireの直説法現在、食事の時の表現	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	これまでのまとめ / フランス文化紹介	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	6課 所有形容詞	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	6課 疑問形容詞、動詞pouvoirの直説法現在		
フリー欄			
第10回			
タイトル	6課 数の読み方 / Civilisation 市場での買い物		
フリー欄			
第11回			
タイトル	Civilisation 市場での買い物 (発展学習)		
フリー欄			
第12回			
タイトル	7課 疑問代名詞		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 7課 非人称構文Il y a...、定冠詞の縮約
	フリー欄
	第14回
	タイトル 7課 疑問副詞
	フリー欄
	第15回
	タイトル 後期内容の理解度確認 / 後期のまとめ
	フリー欄
授業概要	「フランス語一」の履修学生を対象とした講義です。前期に引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。また、フランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。 (大学内の購買部で購入可能。)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度 (20%)、宿題の提出 (20%)、期末試験の結果 (60%) の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称： フランス語三 (60480)

授業コード： 60480

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。		
授業計画	第1回		
	タイトル	前年度「フランス語一、二」の既習事項（教科書1課から7課）の簡単な復習	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	8課 文法：動詞prendre, vouloirの直説法現在 / 部分冠詞（導入）	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	8課 文法：部分冠詞 / 女性形容詞の特殊な形	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	8課 語彙：数量の表現 / 読解：簡単な料理レシピ	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	9課 文法：動詞venirと近接過去	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	9課 文法：第二群規則動詞 / 補語人称代名詞（直接目的語）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	9課 文法：補語人称代名詞（直接目的語）/補語人称代名詞（間接目的語）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	9課 文法：補語人称代名詞（間接目的語）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	これまでのまとめ/ Civilisation レストランに行こう		
フリー欄			
第10回			
タイトル	10課 文法：複合過去（助動詞avoirの例）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	10課 文法：複合過去（助動詞avoirの例/複合過去（助動詞êtreの例）		
フリー欄			
第12回			
タイトル	10課：文法：複合過去（助動詞êtreの例）		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 10課 文法：中性代名詞en, y / 語彙：時の表現
	フリー欄
	第14回
	タイトル 教科書10課の復習
	フリー欄
	第15回
	タイトル 前期内容の理解度確認 / フランス文化紹介
	フリー欄
授業概要	前年度「フランス語一」及び「フランス語二」の履修学生を対象とした講義です。引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。またフランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。 (大学内の購買部で購入可能。)
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をすることでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度（20％）、宿題の提出（20％）、期末試験の結果（60％）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称： フランス語四 (60490)

授業コード： 60490

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
寺本 弘子			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基礎文法と基本表現を理解し、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」能力の基礎を身につける 2. フランス文化についての理解を深める。		
授業計画	第1回		
	タイトル	11課：文法：半過去	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	11課：文法：半過去/動詞savoir, connaitreの直説法現在	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	12課 文法： 非人称構文/時刻の表現	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	12課 文法： 代名動詞（再帰的用法）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	12課 文法： 代名動詞（相互的用法）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	12課 文法：代名動詞（その他の用法）/感嘆文quelとque	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	これまでのまとめ / Civilisation フランス人が好きなデザート	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	13課 文法：比較級	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	13課 文法：比較級/文法：最上級		
フリー欄			
第10回			
タイトル	13課 文法：最上級		
フリー欄			
第11回			
タイトル	13課 文法：指示代名詞 / 語彙：商店の語彙		
フリー欄			
第12回			
タイトル	14課 文法：単純未来		
フリー欄			

	第13回
	タイトル 14課 文法：単純未来
	フリー欄
	第14回
	タイトル 14課 文法：命令法 / 語彙と表現：時の表現
	フリー欄
	第15回
	タイトル 前期内容の理解度確認 / フランス文化紹介
	フリー欄
授業概要	「フランス語三」の履修学生が対象の講義です。前期に引き続き、フランス語の文法の初歩と簡単なフランス語の聞き取り、会話、作文を学びます。またフランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業内容の予習・復習。毎回の授業で取ったノートやメモの整理。宿題への取り組み。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『タルト・タタン』、駿河台出版社、ISBN978-4-411-01120-6 C1085、2300円＋税。 (大学内の購買部で購入可能。)
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	語学の上達には日々の地道な努力が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。教員の方でも、受講生の理解度を確認しながら授業を進めていきます。
評価方法	出席および授業での教員の質問や練習問題への回答の正解度 (20%)、宿題の提出 (20%)、期末試験の結果 (60%) の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称： 中国語一 (60500)

授業コード： 60501 60502

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	中国語の基礎（発音と基本例文）を習得する。まず、中国語の発音について学び、挨拶や文法の初歩について習得することができる。毎回、必ず発音トレーニングを行うことで、正確な発音が習得できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	声調と母音について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	子音について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	鼻母音と軽声について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	声調変化と挨拶表現について解説し、正確に発音できるように練習をする。	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	「是」と諾否疑問文について学び、例文の発音練習をする。	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	動詞述語文と選択疑問文について学び、例文の発音練習をする。	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	指示代詞と「的」の用法について学び、例文の発音練習をする。	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	疑問詞疑問文と「想」の用法について学び、例文の発音練習をする。		
フリー欄			
第10回			
タイトル	形容詞述語文と反復疑問文について学び、例文の発音練習をする。		
フリー欄			
第11回			
タイトル	「有」の用法と量詞について学び、例文の発音練習をする。		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	「了」の用法と前置詞について学び、例文の発音練習をする。
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	年月日と表現と手段・理由の疑問詞について学び、例文の発音練習をする。
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	第13課までの例文を使って、作文演習をする。
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	これまでの学習内容が修得できているか、確認する。
	フリー欄	
授業概要	中国語の発音、ローマ字表記システムであるピンイン、および挨拶など簡単な日常会話を学び、中国語の基礎の習得を目指す。また、中国の文化・社会についても随時紹介していく。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。	
テキスト	杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語24回』白帝社、2400円(税抜)	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	語学の学習で重要なのは声を出すこと。授業では、恥ずかしがらずに大きな声を出しましょう。	
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験で評価する。(発言・発表50%、試験50%)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 中国語一（60500）

授業コード： 60503 60504

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
李 通江			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>簡単なあいさつの言葉を使うことができるような基礎的運用能力を身につけることを目的とします。</p> <p>この中国語Ⅰを履修した学生は、</p> <p>1) 中国語でいう「普通話」とは何かを説明できる。【知識・理解】</p> <p>2) 中国語でいうピンインとは何かを説明できる。【知識・理解】</p> <p>3) ピンインに対応する音声を発音することができる。【技能】</p> <p>4) 簡単な中国語のあいさつ言葉を適切に使うことができる。【技能】</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	授業の進め方とガイダンス	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	発音（声調、母音）	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	発音（複母音、子音）	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	発音（子音、鼻母音）	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	人称代名詞、動詞”是”の文	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	指示代名詞、疑問詞疑問文	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	動詞述語文、所有を表す動詞”有”	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	形容詞述語文、助数詞	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	時刻と時間量の表現		
フリー欄			
第10回			
タイトル	完了を表す”了”、所在を表す”在”		
フリー欄			
第11回			
タイトル	連動文		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	助動詞”想””要”
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	経験を表す”過”
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	存在を表す”有”
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	復習とまとめ
	フリー欄	*進み具合によって多少の変更があります。
授業概要	本授業は、教科書に提示された単語や文型、文法及び本文を説明し、重点的に応用練習を行い、中国の流行や最新事情などを随時に紹介する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	1 テキストの単語、文法をしっかりと覚える。2 テキストに付随するCDを活用する。3 目標を立ててモチベーションを維持する。例えば、中国旅行、中国の留学生と話すなど。	
テキスト	テキスト：改訂版 『さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読』 竹島毅、趙キン著白水社、2, 400円＋税。ISBN978-4-560-06942-4 C3087 ￥2400E 1階大学内の購買部で購入してください。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の勉強は繰り返しと積み重ねが大切です。 1 予習、復習は必ず行う。2 わからないところがあれば積極的に質問する。3 声を出して会話文、読解文を読む練習を行う。 以下を満たしていることを合格の基準とする。 1 中国語文法の基礎を身につけている。2 初級程度の中国語会話ができる。 3 中国語を使って簡単な交流ができる。	
評価方法	授業への参加度20点＋授業中での練習30点＋テスト50点 合計100点	
参考文献	参考書、辞書：授業中に何種類か紹介するので、必要な人はそれを参考にすること。	
備考		

講義科目名称： 中国語二 (60510)

授業コード： 60511 60512

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	中国語の基本文法を習得する。「中国語一」での内容をふまえ、さらに高度な文法事項を身につけることができる。毎回、必ず発音トレーニングを行うことで、正確な発音が習得できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	場所の指示代詞と存在の表現について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	完了の「了」と動詞の重ね型について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	経験の表現と動作量について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	時間量と前置詞について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	「会」「能」の用法と主述述語について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	比較の表現と年齢の尋ね方について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	「是～的」の用法と金額の言い方について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	状態補語と二重目的語について学び、例文を発音練習する。		
フリー欄			
第10回			
タイトル	方向補語と進行、禁止の表現について学び、例文を発音練習する。		
フリー欄			
第11回			
タイトル	結果補語と処置文について学び、例文を発音練習する。		
フリー欄			
第12回			
タイトル	受身文と使役文について学び、例文を発音練習する。		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	近い未来の表現と複分について学び、例文を発音練習する。
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	これまで学んだ重要な例文を使って、作文練習をする。
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	これまでの学習内容が習得できているか、確認する。
	フリー欄	
授業概要	存在・完了・経験・可能・比較・進行・受身・使役・様々な補語など、中国語の基本的な文法事項について講義する。毎回提示する重要構文を正確に理解し、使用できるように指導する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。	
テキスト	杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語24回』白帝社、2400円(税抜)	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	語学は暗記が必要。復習をして次の授業の準備をする習慣を身につけましょう。	
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験をもとに評価する。(発言・発表50%、試験50%)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： 中国語二 (60510)

授業コード： 60513 60514

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
李 通江			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>前期に履修した中国語Ⅰの学修内容を発展させ、日常的場面での会話を学び、応用的な運用能力を身につけるとともに、話し言葉を基盤とする平易な文章を読み解く能力を身につけることを目的とします。</p> <p>この中国語Ⅱを履修した学生は、</p> <p>1) 現代の標準的な中国語の文の特徴を指摘できる。【知識・理解】</p> <p>2) 現代標準中国語の辞書を使用できる。【知識・理解】</p> <p>3) 現代の中国語による日常的な会話を展開することができる。【技能】</p> <p>4) 現代の中国語の話し言葉を基礎とする平易な文章を読み、模倣できる。【技能】</p>																																														
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>授業の進め方とガイダンス</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>前期の復習、現在進行形、主述述語文</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>助動詞”会”</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>様態補語、助動詞”能”</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>比較の表現</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>副詞”有点儿”、持続表現</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>名詞述語文、変化を表す”了”</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>2つの目的語を取る動詞</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>結果補語</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>近い未来を表す表現</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td>方向補語</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td></td> </tr> </table> <p>第12回</p>			タイトル	授業の進め方とガイダンス	フリー欄		タイトル	前期の復習、現在進行形、主述述語文	フリー欄		タイトル	助動詞”会”	フリー欄		タイトル	様態補語、助動詞”能”	フリー欄		タイトル	比較の表現	フリー欄		タイトル	副詞”有点儿”、持続表現	フリー欄		タイトル	名詞述語文、変化を表す”了”	フリー欄		タイトル	2つの目的語を取る動詞	フリー欄		タイトル	結果補語	フリー欄		タイトル	近い未来を表す表現	フリー欄		タイトル	方向補語	フリー欄	
タイトル	授業の進め方とガイダンス																																														
フリー欄																																															
タイトル	前期の復習、現在進行形、主述述語文																																														
フリー欄																																															
タイトル	助動詞”会”																																														
フリー欄																																															
タイトル	様態補語、助動詞”能”																																														
フリー欄																																															
タイトル	比較の表現																																														
フリー欄																																															
タイトル	副詞”有点儿”、持続表現																																														
フリー欄																																															
タイトル	名詞述語文、変化を表す”了”																																														
フリー欄																																															
タイトル	2つの目的語を取る動詞																																														
フリー欄																																															
タイトル	結果補語																																														
フリー欄																																															
タイトル	近い未来を表す表現																																														
フリー欄																																															
タイトル	方向補語																																														
フリー欄																																															

	タイトル	使役表現
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	可能補語
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	受け身
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	復習とまとめ
	フリー欄	*進み具合によって多少の変更があります。
授業概要	上記の目標を達成するため、中国語Ⅰで使用したテキストを継続して使用しつつ、前期と同様の運営を行います。また、映像資料によりながら、実際に中国語が使われている情景を観察してみます。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	中国語Ⅰと同様、教材に添付された音声資料をあらかじめよく聞いておき、音声を確認します。辞書を活用して会話の内容がきちんと把握できるかどうか点検します。疑問点があればメモをし、随時教員に質問しながら受講して下さい。また確認のためのドリルは、授業中の指示に従って、自主的に継続して取り組みましょう。授業で聞いた説明で、教材に疑問の箇所が残っていないかどうかを確かめます。それから、何度も声に出して読み、できる限り記憶して下さい。	
テキスト	テキスト：改訂版 『さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読』 竹島毅、趙キン著白水社、2、400円＋税。ISBN978-4-560-06942-4 C3087 ￥2400E 1階大学内の購買部で購入してください。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語Ⅱの学習では、辞書の助けが必須になります。辞書を活用する習慣を身につけましょう。以下を満たしていることを合格の基準とする。 現代標準中国語の日常的な表現を、場面に応じて口頭で使うことができるとともに、平易な読み物を辞書の助けを借りながら読みこなす能力を身につけていることを合格の基準とします。	
評価方法	授業への参加度20点＋授業中での練習30点＋テスト50点 合計100点	
参考文献	参考書、辞書：授業中に何種類か紹介するので、必要な人はそれを参考にすること。	
備考		

講義科目名称： 中国語三 (60520)

授業コード： 60520

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一」・「中国語二」で学んだ基礎的な内容をふまえ、さらに高度な中国語の知識が習得できる。毎回、必ず発音トレーニングを行うことで、正確な発音が習得できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	中国語一で学んだ、中国語の発音について復習をする。	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	中国語の基本文型の構造、語順の原則について復習をする。	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	「在」の四つの用法について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	「工作」の用法、歓迎の表現について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	「好きだ」の表現、「和」の用法、経験について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	「就」の用法、「どうですか」の表現について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	「多」+形容詞の表現、「才」の用法について学び、例文を発音練習する。		
フリー欄			
第9回			
タイトル	比較の表現、「と」の表現、逆接の接続詞について学び、例文を発音練習する。		
フリー欄			
第10回			
タイトル	値段と金額、連用修飾の表現について学び、例文を発音練習する。		
フリー欄			
第11回			
タイトル	「ちょっと」の言い方、許可の表現について学び、例文を発音練習する。		
フリー欄			

	第12回
	タイトル 「会」「能」の用法、様態補語の表現について学び、例文を発音練習する。
	フリー欄
	第13回
	タイトル 「用」の用法、離合詞の表現について学び、例文を発音練習する。
	フリー欄
	第14回
	タイトル 第13回まで学んだ例文を使って、作文演習をする。
	フリー欄
	第15回
	タイトル これまでの学習内容が修得できているか、確認する。
	フリー欄
授業概要	中国語の様々な文法事項について講義する。テキストの解説について正確に理解した上で、それを活用して自分の考えを中国語で表現できるように指導する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。
テキスト	村松恵子・謝平『中国語入門から初級の基礎力養成講座会話篇』白帝社、2400円(税抜)
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	中国語は初級からのレベルアップが難しい言語です。基礎事項を確認しつつ、応用力を鍛えましょう。
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験で評価する。(発言・発表50%、試験50%)
参考文献	
備考	

講義科目名称： 中国語四 (60530)

授業コード： 60530

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：演習
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一」・「中国語二」・「中国語三」で学んだ内容をふまえ、さらに高度な中国語の知識が習得できる。毎回、必ず発音トレーニングを行うことで、正確な発音が習得できる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	ガイダンスを行い、授業の概要と受講に際しての諸注意を説明する。	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	時間量の表現、「着」の用法について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	存現文、「から」の表現について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	「要」の用法、「さらに」の表現について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	兼語式動詞文、「請」の用法、「打算」の用法について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	結果補語と方向補語の表現について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	複合方向補語の表現と「但」の用法について学び、例文を発音練習する。	
	フリー欄		
	第8回		
タイトル	使役の表現、「好」の用法、不定代名詞の表現について学び、例文を発音練習する。		
フリー欄			
第9回			
タイトル	極端さの表現、「来」の用法について学び、例文を発音練習する。		
フリー欄			
第10回			
タイトル	「給」の用法、可能補語、禁止の表現について学び、例文を発音練習する。		
フリー欄			
第11回			

	タイトル	前置詞「把」、副詞「先」の用法について学び、例文を発音練習する。
	フリー欄	
	第12回	
	タイトル	「的」「被」「叫」「地」の用法について学び、例文を発音練習する。
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	指示詞＋形容詞、程度補語、自然現象の表現について学び、例文を発音練習する。
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	これまで学んだ例文や単語を使って、自己紹介の文章を作成する。
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	これまでの例文がきちんと暗記できているか、確認する。
	フリー欄	
授業概要	中国語の様々な文法事項について講義する。テキストの解説について正確に理解した上で、自分の考えを中国語で表現できるように指導する。最終的には中国語で自己紹介ができるレベルを目指す。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。	
テキスト	村松恵子・謝平『中国語入門から初級の基礎力養成講座会話篇』白帝社、2400円(税抜)	
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	中国語三までに修得した文法・単語も活かしつつ、様々な場面での会話をシミュレーションして、自分の考えを自由に表現できる力を身につけましょう。	
評価方法	発言や発表、および期末の筆記試験をもとに評価する。(発言・発表50%、試験50%)	
参考文献		
備考		

講義科目名称： スポーツ実技一 (60610)

授業コード： 60610

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実技、演習、講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>個人種目のスポーツ（バドミントン、卓球、ゴルフ、テニス）を実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	レクリエーション ①スカイクロス	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	レクリエーション ②ボッチャ	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	レクリエーション ③ミニバレー	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	体力測定 ①室内	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	体力測定 ②室外	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	ゴルフ、テニス ①基礎技術の習得（ショートアイアン、ストローク）	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	ゴルフ、テニス ②基礎技術の習得（アプローチ、サーブ）	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	ゴルフ、テニス ③ゲーム理解		
フリー欄			
第10回			
タイトル	ゴルフ、テニス ④ゲーム展開		
フリー欄			
第11回			
タイトル	バドミントン、卓球 ①基礎技術の習得		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	バドミントン、卓球 ②ゲーム理解
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	バドミントン、卓球 ③ゲーム展開 (シングルス)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	バドミントン、卓球 ④ゲーム展開 (ダブルス)
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	選択実践
	フリー欄	
授業概要	様々な個人種目のスポーツを行う。 初回のオリエンテーションにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。 運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	個人種目であっても仲間がいないとスポーツは成立しません。楽しくスポーツを行えることができる環境を仲間とともに作っていきましょう。	
評価方法	授業参加度 (主体的・積極的) 60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%	
参考文献		
備考	1) 2025年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする (例えば、スポーツ実技一と三を同時に履修することはできない (集中講義は除く))。 2) 履修者の上限は48名とする。上限を超えた場合は抽選を行う (ただしスポーツ実技未履修者を優先とする)。 3) 1年次での履修を推奨する。	

講義科目名称： スポーツ実技二 (60620)

授業コード： 60620

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実技
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>個人種目のスポーツ（バドミントン、卓球、ゴルフ、テニス）を実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	レクリエーション	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	体力測定 ①室内	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	体力測定 ②室外	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	ゴルフ、テニス ①基礎技術の習得（ショートアイアン、ストローク）	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	ゴルフ、テニス ②基礎技術の習得（アプローチ、サーブ）	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	ゴルフ、テニス ③ゲーム理解	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	ゴルフ、テニス ④ゲーム展開	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	バドミントン、卓球 ①基礎技術の習得（ストローク）		
フリー欄			
第10回			
タイトル	バドミントン、卓球 ②基礎技術の習得（サーブ）		
フリー欄			
第11回			
タイトル	バドミントン、卓球 ③ゲーム理解		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	バドミントン、卓球 ④ゲーム展開 (シングルス)
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	バドミントン、卓球 ⑤ゲーム展開 (ダブルス)
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	グループ実践 ①基礎
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	グループ実践 ②応用
	フリー欄	
授業概要	<p>様々な個人種目のスポーツを行う。 初回のオリエンテーションにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。 運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。</p>	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	<p>個人種目であっても仲間がいないとスポーツは成立しません。楽しくスポーツを行えることができる環境を仲間とともに作っていきましょう。</p>	
評価方法	授業参加度 (主体的・積極的) 60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%	
参考文献		
備考	<p>1) 2025年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする (例えば、スポーツ実技二と四を同時に履修することはできない (集中講義は除く))。 2) 履修者の上限は48名とする。上限を超えた場合は抽選を行う (ただしスポーツ実技未履修者を優先とする)。 3) 1年次での履修を推奨する。</p>	

講義科目名称： スポーツ実技三 (60630)

授業コード： 60630

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実技
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>団体種目のスポーツ（フットサル、バレーボール、バスケットボール）を実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	レクリエーション ①スカイクロス	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	レクリエーション ②ボッチャ	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	レクリエーション ③ミニバレー	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	体力測定 ①室内	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	体力測定 ②室外	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	フットサル ①基礎技術の習得	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	フットサル ②ゲーム理解	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	フットサル ③ゲーム展開		
フリー欄			
第10回			
タイトル	バスケットボール ①基礎技術の習得		
フリー欄			
第11回			
タイトル	バスケットボール ②ゲーム理解		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	バスケットボール ③ゲーム展開
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	バレーボール ①基礎技術の習得
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	バレーボール ②ゲーム理解
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	バレーボール ③ゲーム展開
	フリー欄	
授業概要	<p>様々な団体種目のスポーツを行う。 初回のオリエンテーションにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。 運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。</p>	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>団体種目は仲間との関係性が重要です。お互いの特徴を活かし合い仲間とスポーツを行う楽しさを体験してもらいたいです。</p>	
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%	
参考文献		
備考	<p>1) 2025年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技一と三を同時に履修することはできない（集中講義は除く））。</p> <p>2) 履修者の上限は48名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（ただしスポーツ実技未履修者を優先とする）。</p> <p>3) 1年次での履修を推奨する。</p>	

講義科目名称： スポーツ実技四 (60640)

授業コード： 60640

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実技
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>団体種目のスポーツ（フットサル、バレーボール、バスケットボール）を実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	レクリエーション	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	体力測定 ①室内	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	体力測定 ②室外	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	フットサル ①基礎技術の習得	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	フットサル ②ゲーム理解	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	フットサル ③ゲーム展開	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	バレーボール ①基礎技術の習得	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	バレーボール ②ゲーム理解		
フリー欄			
第10回			
タイトル	バレーボール ③ゲーム展開		
フリー欄			
第11回			
タイトル	バスケットボール ①基礎技術の習得		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	バスケットボール ②ゲーム理解
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	バスケットボール ③ゲーム展開
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	グループ実践 ①基礎
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	グループ実践 ②応用
	フリー欄	
授業概要	<p>様々な団体種目のスポーツを行う。 初回のオリエンテーションにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。 運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。</p>	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>団体種目は仲間との関係性が重要です。お互いの特徴を活かし合い仲間とスポーツを行う楽しさを体験してもらいたいです。</p>	
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%	
参考文献		
備考	<p>1) 2025年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技二と四を同時に履修することはできない（集中講義は除く））。</p> <p>2) 履修者の上限は48名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（ただしスポーツ実技未履修者を優先とする）。</p> <p>3) 1年次での履修を推奨する。</p>	

講義科目名称： スポーツ実技五 (60650)

授業コード： 60650

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実技、演習、講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>ニュースポーツを実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	レクリエーション ①スカイクロス	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	レクリエーション ②ボッチャ	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	レクリエーション ③ミニバレー	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	体力測定 ①室内	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	体力測定 ②室外	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	ニュースポーツ体験 ①インディアカ	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	ニュースポーツ体験 ②ドッジビー	
	フリー欄		
	第9回		
	タイトル	ニュースポーツ体験 ③アルティメット	
	フリー欄		
	第10回		
	タイトル	ネオホッケー ①ゲーム理解	
	フリー欄		
	第11回		
	タイトル	ネオホッケー ②ゲーム展開	
	フリー欄		
	第12回		
	タイトル	ボッチャ ①ゲーム理解	

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	ボッチャ ②ゲーム展開
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	選択実践 ①基礎
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	選択実践 ②応用
	フリー欄	
授業概要	<p>様々なニュースポーツを行う。 初回のオリエンテーションにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。 運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。</p>	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>世の中には数多くのスポーツが存在します。これまでに体験したことのないスポーツに触挑戦することで、生涯にわたり楽しむことができるスポーツと出会えるかもしれません。</p>	
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%	
参考文献		
備考	<p>1) 2025年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技一と三を同時に履修することはできない（集中講義は除く））。 2) 履修者の上限は48名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（ただしスポーツ実技未履修者を優先とする）。 3) 1年次での履修を推奨する。</p>	

講義科目名称： スポーツ実技六 (60660)

授業コード： 60660

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実技
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>ニュースポーツを実践し、その基礎的な技術の習得、ルールや競技特性の理解を図ることで、生涯にわたりスポーツに親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目のルールや競技特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>																																																																										
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">レクリエーション</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">体力測定 ①室内</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">体力測定 ②室外</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ニュースポーツ体験 ①インディアカ</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ニュースポーツ体験 ②ミニバレー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ニュースポーツ体験 ③ドッジビー</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ニュースポーツ体験 ④アルティメット</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ネオホッケー ①ゲーム理解</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ネオホッケー ②ゲーム展開</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ボッチャ ①ゲーム理解</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第12回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">ボッチャ ②ゲーム展開</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			タイトル	オリエンテーション		フリー欄			タイトル	レクリエーション		フリー欄			タイトル	体力測定 ①室内		フリー欄			タイトル	体力測定 ②室外		フリー欄			タイトル	ニュースポーツ体験 ①インディアカ		フリー欄			タイトル	ニュースポーツ体験 ②ミニバレー		フリー欄			タイトル	ニュースポーツ体験 ③ドッジビー		フリー欄			タイトル	ニュースポーツ体験 ④アルティメット		フリー欄			タイトル	ネオホッケー ①ゲーム理解		フリー欄			タイトル	ネオホッケー ②ゲーム展開		フリー欄			タイトル	ボッチャ ①ゲーム理解		フリー欄			タイトル	ボッチャ ②ゲーム展開		フリー欄		
タイトル	オリエンテーション																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	レクリエーション																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	体力測定 ①室内																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	体力測定 ②室外																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	ニュースポーツ体験 ①インディアカ																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	ニュースポーツ体験 ②ミニバレー																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	ニュースポーツ体験 ③ドッジビー																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	ニュースポーツ体験 ④アルティメット																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	ネオホッケー ①ゲーム理解																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	ネオホッケー ②ゲーム展開																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	ボッチャ ①ゲーム理解																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	ボッチャ ②ゲーム展開																																																																										
フリー欄																																																																											

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	グループ実践 ①基礎
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	グループ実践 ②応用
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	グループ実践 ③発展
	フリー欄	
授業概要	<p>様々なニュースポーツを行う。 初回のオリエンテーションにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。 運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施種目のルールや歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。</p>	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>世の中には数多くのスポーツが存在します。これまでに体験したことのないスポーツに触挑戦することで、生涯にわたり楽しむことができるスポーツと出会えるかもしれません。</p>	
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、ゲーム活動への取り組みや課題40%	
参考文献		
備考	<p>1) 2025年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技二と四を同時に履修することはできない（集中講義は除く））。 2) 履修者の上限は48名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（ただしスポーツ実技未履修者を優先とする）。 3) 1年次での履修を推奨する。</p>	

講義科目名称： スポーツ実技七 (60670)

授業コード： 60670

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実技、演習、講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	有酸素運動やストレッチ、筋力トレーニング等を実践し、その基礎的な技術の習得、運動特性の理解を図ることとで、生涯にわたり身体運動に親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。 1) 実施運動の運動特性を理解することができる。 2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施運動を実践することができる。 3) 自身の技術や体力などに応じた運動プログラムを作成し、実践することができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	レクリエーション ①スカイクロス	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	レクリエーション ②ボッチャ	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	レクリエーション ③ミニバレー	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	体力測定 ①室内	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	体力測定 ②室外	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	体力測定評価	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	ウォーキング・ジョギング	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	ストレッチ		
フリー欄			
第10回			
タイトル	ヨガ		
フリー欄			
第11回			
タイトル	ダンス		
フリー欄			
第12回			
タイトル	筋力トレーニング		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	運動プログラムの作成
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	運動プログラムの実践
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	運動プログラムの改善
	フリー欄	
授業概要	フィットネストレーニングを行う。 初回のオリエンテーションにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。 運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	体調に留意するとともに、実施運動の特性や歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツや健康に関連する情報にアンテナを張ること。	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	心身ともに健康で文化的な生活を営むために運動は大切です。運動実践を通して現在や未来の健康を考えてみましょう。	
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、運動実践への取り組みや課題40%	
参考文献		
備考	1) 2025年度前期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技一と三を同時に履修することはできない（集中講義は除く））。 2) 履修者の上限は40名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（ただしスポーツ実技未履修者を優先とする）。 3) 1年次での履修を推奨する。	

講義科目名称： スポーツ実技八（60680）

授業コード： 60680

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実技
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	有酸素運動やストレッチ、筋力トレーニング等を実践し、その基礎的な技術の習得、運動特性の理解を図ることとで、生涯にわたり身体運動に親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。 1) 実施運動の運動特性を理解することができる。 2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施運動を実践することができる。 3) 自身の技術や体力などに応じた運動プログラムを作成し、実践することができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	レクリエーション	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	体力測定 ①室内	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	体力測定 ②室外	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	体力測定評価	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	ウォーキング・ジョギング	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	ストレッチ	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	ヨガ	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	ダンス		
フリー欄			
第10回			
タイトル	筋力トレーニング		
フリー欄			
第11回			
タイトル	運動プログラムの作成		
フリー欄			
第12回			
タイトル	運動プログラムの実践		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	運動プログラムの改善
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	グループ実践 ①基礎
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	グループ実践 ②応用
	フリー欄	
授業概要	<p>フィットネストレーニングを行う。 初回のオリエンテーションにおいて受講者数を決定し、それを踏まえて実際の授業方法を指示する。 運動に適した服装、屋外種目は運動用シューズ、屋内種目は体育館用シューズを必ず着用すること。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	<p>体調に留意するとともに、実施運動の特性や歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツや健康に関連する情報にアンテナを張ること。</p>	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	心身ともに健康で文化的な生活を営むために運動は大切です。運動実践を通して現在や未来の健康を考えてみましょう。	
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、運動実践への取り組みや課題40%	
参考文献		
備考	<p>1) 2025年度後期のスポーツ実技の履修は1単位のみとする（例えば、スポーツ実技二と四を同時に履修することはできない（集中講義は除く））。</p> <p>2) 履修者の上限は40名とする。上限を超えた場合は抽選を行う（ただしスポーツ実技未履修者を優先とする）。</p> <p>3) 1年次での履修を推奨する。</p>	

講義科目名称： スポーツ実技九 (60690)

授業コード： 60690

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実技
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>自然の中でスポーツを実践し、その基礎的な技術の習得、運動特性の理解を図ることで、生涯にわたり身体運動に親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 実施種目の運動特性を理解することができる。</p> <p>2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。</p> <p>3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。</p>																																																																										
授業計画	<p>第1回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">事前指導 ①オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第2回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">事前指導 ②アウトドアスポーツの基本</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第3回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">事前指導 ③トレーニング</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第4回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">レクリエーション ①自然体験</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第5回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">レクリエーション ②スラックライン</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第6回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">トレッキング ①知識・技術</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第7回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">トレッキング ②自然・身体を知る</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第8回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">登山 ①知識</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第9回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">登山 ②技術</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第10回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">登山 ③自然を知る</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第11回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">登山 ④身体を知る</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table> <p>第12回</p> <table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="2">登山 ⑤仲間を知る</td> </tr> <tr> <td>フリー欄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			タイトル	事前指導 ①オリエンテーション		フリー欄			タイトル	事前指導 ②アウトドアスポーツの基本		フリー欄			タイトル	事前指導 ③トレーニング		フリー欄			タイトル	レクリエーション ①自然体験		フリー欄			タイトル	レクリエーション ②スラックライン		フリー欄			タイトル	トレッキング ①知識・技術		フリー欄			タイトル	トレッキング ②自然・身体を知る		フリー欄			タイトル	登山 ①知識		フリー欄			タイトル	登山 ②技術		フリー欄			タイトル	登山 ③自然を知る		フリー欄			タイトル	登山 ④身体を知る		フリー欄			タイトル	登山 ⑤仲間を知る		フリー欄		
タイトル	事前指導 ①オリエンテーション																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	事前指導 ②アウトドアスポーツの基本																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	事前指導 ③トレーニング																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	レクリエーション ①自然体験																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	レクリエーション ②スラックライン																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	トレッキング ①知識・技術																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	トレッキング ②自然・身体を知る																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	登山 ①知識																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	登山 ②技術																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	登山 ③自然を知る																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	登山 ④身体を知る																																																																										
フリー欄																																																																											
タイトル	登山 ⑤仲間を知る																																																																										
フリー欄																																																																											

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	カヌー体験 ①知識・技術
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	カヌー体験 ②自然・身体を知る
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	事後指導
	フリー欄	
授業概要	登山やカヌー等の自然の中でのスポーツを行う。 事前・事後指導ならびに2泊3日の学外研修（山形県西川町月山を予定）にて行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	体調に留意するとともに、実施運動の特性や歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自然の中でスポーツを行う魅力を体感してもらいたいです。	
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、課題40%	
参考文献		
備考	1) 実習費用は約3万円を予定（オリエンテーションまでには確定）。 2) 別途、登山靴やレインウェア等の用意が必要である。 3) 天候等の影響により、実施内容が変更する場合がある。 4) 宿泊をともなう学外研修のため、各自で緊急時の対応が困難な場合は通常授業のスポーツ実技の受講を推奨する。	

講義科目名称： スポーツ実技十 (60700)

授業コード： 60700

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：実技
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	スノースポーツを実践し、その基礎的な技術の習得、運動特性の理解を図ることで、生涯にわたり身体運動に親しむことができる基盤を築く。到達目標は以下の三点である。 1) 実施種目の運動特性を理解することができる。 2) 基礎技術を習得し、主体的・積極的に実施種目を実践することができる。 3) 個々の技術や体力に応じて、仲間と協同して実施種目を実践することができる。		
授業計画	第1回		
	タイトル	事前指導 ①オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	事前指導 ②アウトドアスポーツの基本	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	事前指導 ③トレーニング	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	レクリエーション ①自然体験	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	レクリエーション ②スノーアクティビティ	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	スノーシュー ①知識・技術	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	スノーシュー ②自然を知る	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	スノーシュー ③身体を知る	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	雪板 ①知識・技術		
フリー欄			
第10回			
タイトル	雪板 ②自然を知る		
フリー欄			
第11回			
タイトル	雪板 ③身体を知る		
フリー欄			
第12回			
タイトル	クロスカン트리ースキー体験 ①知識・技術		

	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	クロスカントリースキー体験 ②自然を知る
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	クロスカントリースキー体験 ③身体を知る
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	事後指導
	フリー欄	
授業概要	スノーシュー、雪板等のスノースポーツを行う。 事前・事後指導ならびに2泊3日の学外研修（山形県西川町月山を予定）にて行う。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	体調に留意するとともに、実施運動の特性や歴史的・文化的背景等を調べ理解すること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自然の中でスポーツを行う魅力を体感してもらいたいです。	
評価方法	授業参加度（主体的・積極的）60%、課題40%	
参考文献		
備考	1) 実習費用は約3万円を予定（オリエンテーションまでには確定）。 2) 別途、防寒具（スキーウェアやスノーブーツ等）等の用意が必要である。 3) 天候等の影響により、実施内容が変更する場合がある。 4) 宿泊をともなう学外研修のため、各自で緊急時の対応が困難な場合は通常授業のスポーツ実技の受講を推奨する。	

講義科目名称： 健康理論 (60710)

授業コード： 60710

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択・教職選択必修
担当教員			
加藤 守匡			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康管理を行なう上で必要となる知識や健康づくりに関する様々な情報について学習する。 ・自分の健康管理を行う手法を学習する。 		
授業計画	第1回		
	タイトル	健康づくりに関する各種取り組みの紹介	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	自分自身の日常運動量及び体力について	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	日頃の健康状態のセルフチェック法	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	メンタルフィットネス	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	健康と体力	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	現代の学生生活と健康	
フリー欄			
第7回			
タイトル	加齢と健康について		
フリー欄			
第8回			
タイトル	まとめ		
フリー欄			
授業概要	健康のためにどのようなことを実践しているかを確認してもらい、健康に生きて行くためには日常生活でどのような点に注意を置き、どのような生活スタイルを身につけたらよいかについて資料等を通して学習していく。		
実務経験及び授業の内容	自治体での健康推進計画(米沢市、長井市)や介護保険運営協議会(米沢市)、認知症施策推進行動計画(山形県)、様々な自治体での運動教室やスポーツ指導、山形県スポーツ医科学推進会議委員、山形県トレーナー協会理事などでの経験を生かし健康理論の授業を行う。		
時間外学習	授業を踏まえて配布した資料等を今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。		
テキスト	資料を適宜配布します。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)			
評価方法	期末レポート課題：50%、授業への参加度(理由、報告のない欠席、途中入退室等)：50%で評価します。		
参考文献			
備考			

講義科目名称： スポーツ文化論 (60720)

授業コード： 60720

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
村井 友樹			
自由表示項目 1	自由表示項目 2	自由表示項目 3	自由表示項目 4
			授業形態：講義
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>「近代スポーツ」への理解を深め、現代社会のスポーツ、さらにはこれからのスポーツを考えることができるようになることを目指す。到達目標は以下の三点である。</p> <p>1) 近代スポーツの誕生とその普及や発展について理解し、説明することができる。</p> <p>2) スポーツと政治、経済、社会等との関係性を理解し、それらを具体的な事例を挙げて説明することができる。</p> <p>3) 現代社会におけるスポーツの課題に対する自らの意見を述べるすることができる。</p>		
授業計画	第1回		
	タイトル	オリエンテーション	
	フリー欄		
	第2回		
	タイトル	スポーツとは何か	
	フリー欄		
	第3回		
	タイトル	近代スポーツの成立	
	フリー欄		
	第4回		
	タイトル	近代スポーツの伝播	
	フリー欄		
	第5回		
	タイトル	近代オリンピックの誕生と発展	
	フリー欄		
	第6回		
	タイトル	近代スポーツとアマチュアリズム	
	フリー欄		
	第7回		
	タイトル	スポーツと政治	
	フリー欄		
	第8回		
	タイトル	スポーツと経済	
	フリー欄		
第9回			
タイトル	スポーツとメディア		
フリー欄			
第10回			
タイトル	スポーツとジェンダー		
フリー欄			
第11回			
タイトル	スポーツと教育		
フリー欄			
第12回			

	タイトル	スポーツと健康
	フリー欄	
	第13回	
	タイトル	スポーツと芸術
	フリー欄	
	第14回	
	タイトル	スポーツとテクノロジー
	フリー欄	
	第15回	
	タイトル	まとめ
	フリー欄	
授業概要	「近代スポーツ」がなぜ誕生し、どのように世界各地へと普及していったのかを概説し、スポーツが文化現象としてその時々時代の政治、経済、社会などに影響され、歴史的に大きく変容し続けていることを提示する。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	授業の中で興味を持ったことに関して自分なりに調べること。 日頃よりスポーツに関連する情報にアンテナを張ること。	
テキスト	適宜資料を配布する。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日常生活には多くのスポーツに溢れています。スポーツに関連する情報に関心を持ってみてください。新たなスポーツの側面を垣間見ることができるかもしれません。	
評価方法	授業内課題80%、最終課題20%	
参考文献	井上俊・菊幸一編（2020）よくわかるスポーツ文化論[改訂版]．ミネルヴァ書房．	
備考		